

教室一年の歩み

北海道大学医学部産婦人科



令和2年度

北大産婦人科同門会・WIND学術講演会

<Web開催>

令和2年12月5日(土)

北大産婦人科学教室 1年の主なできごと
〔2020(令和2年) 1月～2020(令和2年) 12月〕

(＊個人情報保護の観点から、結婚・出産等の情報は掲載しておりません。)

(令和2年)

1月	9	木	医学部合同新年会	(札幌グランドホテル)
	17	金	日産婦常務理事会	(東京)
	20	月	朝野拓史先生 学位最終審査	(北大)
	25	土	W I N D研修発表会	(北大)
	26	日	北産婦理事会	(札幌)
	29	水	Gynecologic Cancer Forum in Tomakomai 渡利教授講演	(東京)
	31	金	道北産婦人科医会学術講演会 渡利教授講演	(旭川)
2月	1	土	道東産婦人科医会 渡利教授特別講演	(釧路)
	8	土	第8回婦人科がんバイオマーカー研究会 渡利教授座長	(横浜)
	15	土	旭医大・千石一雄教授退任記念祝賀会	(旭川)
	17	月	遠隔妊婦健診・診療説明会	(弟子屈)
3月	12	木	渡利教授 優秀研究賞授賞式・祝賀会	(北大)
	14	土	日本婦人科腫瘍学会理事会 日本臨床細胞学会第4回理事会	(東京)
	25	水	朝野拓史先生 博士学位授与式	(北大)
4月	1	水	遠藤大介先生 北大病院婦人科特任助教着任	(北大)
	18	土	W I N D理事会 (Web配信)	(北大)
	23	木	第72回日本産科婦人科学会学術講演会～26日 (Web配信) 日産婦第1回臨時理事会・臨時総会 (Web)	
5月	1	金	蝦名康彦先生 北大保健科学研究院教授ご就任	(北大)
	22	金	日産婦第1回未来委員会 (Web)	
	23	土	W I N D総会 (Web)	(北大)
	29	金	日産婦学術委員会 (Web)	
	30	土	日産婦学会第1回理事会 (Web)	
6月	1	月	遠藤大介先生 婦人科病棟医長発令	(北大)
	12	金	日本婦人科腫瘍学会常務理事会 (Web)	
	15	月	朝野先生 学位論文公開発表 (web)	(北大)
	20	土	日産婦学会第2回臨時理事会、同・定時総会 (web) 日本臨床細胞学会第2回理事会 (web)	
	21	日	日産婦全国地方委員長会議 (web)	
	25	木	W I N D研修説明会 (Web)	(北大)
7月	3	金	日産婦臨時未来委員会 (Web)	
	9	木	W I N D研修説明会 (Web)	(北大)
	17	金	日本婦人科腫瘍学会旧理事会、同社員総会 (web)、同新理事会 (web)	
	25	土	岩手医科大学名誉教授・西谷巖先生お通夜	(盛岡)
	29	水	日産婦地方連絡委員会 (web)	
	31	金	日産婦常務理事会 (web)	

8月	17	月	日本婦人科腫瘍学会倫理委員会 (web)	
	21	金	臨床解剖実習室落成式	(北大医歯学総合棟2F)
	21	金	韓国Webセミナー 渡利教授講演	
	24	月	日本婦人科腫瘍学会第1回常務理事会 (web)	
	25	火	日産婦第2回未来委員会 (web)	
	30	日	日産婦専門医2次試験	(札幌)
9月	4	金	日産婦第2回学術担当理事会、第2回学術委員会、第1回渉外委員会 (web)	
	5	土	日産婦第2回理事会 (web)	
	8	火	眞山学徳先生 学位中間審査	(北大)
	17	木	武田薬品MR向け卵巣がん勉強会 渡利教授講演 (web)	
	23	水	Ovarian Cancer Round Table Discussion 渡利教授座長 (web)	
	30	水	日本婦人科腫瘍学会常務理事会 (web)	
10月	1	木	千葉健太郎先生 産科外来医長発令	(北大)
	5	月	Scientific Exchange Meeting 2020 in 北海道 渡利教授座長 (Web)	
	8	木	Gynecologic Oncology Seminar 渡利教授座長 (web)	
	9	金	日産婦常務理事会 (web)	
	30	金	日本婦人科腫瘍学会第4回常務理事会 (web)	
11月	4	水	長崎産婦人科周術期セミナー 渡利教授特別講演 (web)	
	6	金	日産婦常務理事会 (web) 日産婦未来委員会若手委員会 (web)	
	8	日	WIND理事会 (web)	(北大)
	11	水	第43回日本産婦人科手術学会セミナー 渡利教授座長 (web)	
	13	金	第24回新潟産婦人科漢方研究会 渡利教授特別講演	(新潟)
	19	木	Gynecology Expert Meeting 2020 渡利教授講演 (web)	
	21	土	第57回日本臨床細胞学会秋期大会～22日 日本臨床細胞学会第3回理事会 (web)	(横浜ハイブリッド)
	22	日	ランチョンセミナー 渡利教授座長 (web)	
	29	日	第235回熊本産科婦人科学会 渡利教授特別講演 (web)	
12月	3	木	日産婦第3回未来委員会 (web)	
	5	土	北大産婦人科同門会学術講演会 (web)	
	7	月	セジューラ発売記念講演会 in Hokkaido 渡利教授座長 (web)	
	10	木	日産婦第2回渉外委員会 (web)	
	11	金	日産婦第3回学術委員会 (web)	
	12	土	日産婦第3回理事会 (web)	
	14	月	東京大学産婦人科学教室講演会 渡利教授特別講演 (web)	
	20	日	日本婦人科腫瘍学会試験・面接	(札幌)

産婦人科臨床統計（外来患者総数 2019.1.1～2019.12.31）

外来患者数	25914
婦人科新規患者総数 (入院中新来含む)	896
産科新規患者総数	394
婦人科再来総数	20469
専門外来患者総数	15146
腫瘍外来/腫瘍再来	4323
腫瘍・コルポ外来	1119
内分泌・不妊・内膜症外来（土日祭日を含む）	4809
女性健康外来	2893
乳房外来	1082
リンパ浮腫外来（リンパ浮腫新来を含む）	612
リンパ浮腫ケア外来	308
一般再来患者総数	5323
一般外来	3785
術前外来	551
新来再来	292
予約外-休日再診等	695
産科再来総数	4155
産科妊婦外来	2152
産科予備枠	278
午後外来	81
産科特殊健診外来(初期+後期)	564
産後・避妊外来	353
遺伝・出生前診断外来(初診・再診含む)	482
胎児心エコー外来	108
新生児1ヶ月健診	130
助産外来	7

○病床稼働率(%)

診療月	産科(42床)	婦人科(38床)	NICU(9床)
平成31年1月	60.5	70.2	94.6
平成31年2月	66.2	76.3	97.6
平成31年3月	58.1	79.1	85.7
平成31年4月	51.9	84.6	96.7
令和1年5月	50.5	84.0	91.4
令和1年6月	60.5	89.6	92.6
令和1年7月	61.8	88.7	96.8
令和1年8月	57.2	82.6	96.1
令和1年9月	62.9	85.5	101.1
令和1年10月	60.2	84.9	94.3
令和1年11月	61.6	86.0	96.3
令和1年12月	63.4	75.2	90.3
累計	59.6	82.2	94.4

※産科病床には、MFICUならびにNICU以外の新生児病床を含む。

MFICU稼働前(平成24年7月まで)：産科 24床、一般新生児 3床、GCU 11床

MFICU稼働後(平成24年8月から)：産科 23床、一般新生児 4床、GCU 11床

※4-1 42床には共通病床4床を含む。

※婦人科病床（固有床は32床）には、他科入院患者を含む。

産科臨床統計 2019

産科臨床統計 I

(2019.01.01~2019.12.31)

○ 分娩	胎児数	母体数	胎児数	母体数
正常分娩 ※	56	56		
(※以下の異常を認めなかったものを正常分娩とした)				
異常分娩	254	(235)		
早産 (死産を除く)	41	(32)		
22週～27週	3	(1)		
28週～35週	26	(23)		
36週	12	(8)		
帝王切開 (適応別)	167	(148)	(適応は重複あり)	
常位胎盤早期剥離		(6)	分娩停止・回旋異常	(2)
早産		(40)	前置・低置胎盤	(9)
既往帝切		(39)	胎児疾患	(16)
骨盤位		(13)	骨盤内腫瘍	(0)
筋腫核出/腺筋症切除後		(4)	妊娠高血圧症候群 (PIH、HELLP症候群、妊娠高血圧腎症)	(13)
CPD(疑い)		(0)	TOLAC→不成功	(0)
多胎		(16)	社会的適応	(0)
母体合併症		(115)	子宮内感染	(16)
NRFS		(19)	TTTS	(2)
吸引分娩	10	(10)		
胎位異常 (死産を除く)	36	(27)		
骨盤位	31	(23)		
その他	5	(4)		
多胎 (死産を含む)			(死産を除く)	
双胎		(21)		(15)
MM		(0)	MM	(0)
MD		(16)	MD	(12)
DD		(4)	DD	(3)
TT	-			
DT	-			
品胎(TT品胎)		(0)		-
既往帝切 (死産を除く)				
帝切	39	(39)		
VBAC	1	(2)		
産科異常				
妊娠高血圧症候群 (PIH、妊娠高血圧腎症)		(18)	頸管裂傷	(0)
HELLP症候群		(1)	常位胎盤早期剥離	(7)
頸管縫縮術後		(7)	羊水過多	(13)
前置・低置胎盤		(6)	羊水過少	(9)
癒着胎盤		(2)		
死産	8	(8)	原因不明のIUFD	0 (5)
22週以上	9	(7)	MD双胎 不明	3 (4)
奇形			MD双胎 心不全	0 (0)
			TT品胎 周産期感染	0 (0)
12週～21週	14	(15)		
母体適応	0	(0)	自然流産 (IUFD含)	0 (0)
胎児異常	7	(6)	染色体異常	2 (2)
			計	310 291

(2019.01.01~2019.12.31)

○ 流産

母体数

自然流産		4
	12週未満(D&Cを要したもの)	0
	12週~21週	0
	22週~(IUFD)	4
人工流産	(人工妊娠中絶、人工流産)	17
	12週未満	2
	12週~21週	15
	母体疾患	2
	胎児異常	9
	染色体異常	2
	その他	2
計		21

(2019.01.01~2019.12.31)

○ IVF-ET(BT)妊娠

※ 12週未満の流産症例は含まない

		児数	母体数
単胎		7	7
	うち、ZIFT		
双胎		2	2
	うち、ZIFT		
	MM	1	1
	MD	1	1
	DD	0	0
	TT	0	0
	DT	0	0
品胎		0	0

産科臨床統計 II

(2019.01.01~2019.12.31)

○ 合併症妊娠・ハイリスク妊娠（以下のベ母体数、重複あり）

中枢神経系（含む脳血管疾患）	16 例
呼吸器疾患	8 例
消化器疾患	3 例
腎泌尿器疾患	6 例
血液疾患	14 例
心疾患	7 例
内分泌代謝疾患	33 例
精神疾患	23 例
自己免疫疾患	19 例
血液型不適合	4 例

(2019.01.01~2019.12.31)

○ 胎児異常分娩症例 (22週以降・重複あり)

13トリソミー	0
18トリソミー	6
21トリソミー	2
心奇形	23
TGA	5
DORV	3
心内膜床欠損	4
エブスタイン奇形	1
心室中隔欠損	8
ファロー四徴症	3
その他	42
臍動静脈瘻	0
脳梁欠損	0
脳室拡大	1
キアリ奇形	0
腎盂拡張・水腎症	3
尿道下裂	0
MCDK	0
胎児胸水	3
胎児腹水	4
食道閉鎖	0
横隔膜ヘルニア	2
臍帯ヘルニア	1
先天性CMV感染	1
胎児軟骨無形成症	0
児頭骨盤不均衡	0
胎児脊髄髄膜瘤	0

産科臨床統計 III

(2019.1.1~2019.12.31)

○ 染色体検査実施理由（来院時）	35	CVS
高年妊娠	3	0
35～39	3	0
40～	0	0
胎児異常	13	0
胎児水腫/Cystic hygroma/NT肥厚	9	0
その他の異常	4	0
先天異常児妊娠既往	1	0
染色体異常	1	0
その他の異常	0	0
非確定的検査：ハイリスク	18	1
不安（35歳未満）	0	1
均衡転座保因者	0	0
遺伝子診断	0	1
脊髄小脳変性症Ⅰ型	1	0
計	35	3

○ 染色体検査結果	
正常核型	25
46,XX	14
46,XY	11
46,XX/46,XX	
数的異常	9
21trisomy	2
18trisomy	5
45.x	2
構造異常	1
46.XY.rec(18)dup(18q)irv(18)	1
正常変異	0
モザイク	0
計	35

産科臨床統計 IV

(2019.1.1～2019.12.31)

○ 臍帯穿刺	1
--------	---

○ 胎児穿刺	
--------	--

胎児胸腔穿刺	2
--------	---

胎児腹腔穿刺	1
--------	---

胎児膀胱穿刺	0
--------	---

胎児心嚢液穿刺	0
---------	---

○ 胎児治療	(のベ母体数)
--------	---------

羊水減圧	0
------	---

羊水注入	0
------	---

胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術	0
-------------------	---

胎児胸腔・羊水腔シャント術	6
---------------	---

経母体的免疫グロブリン	0
-------------	---

経母体 β -stimulant投与（胎児徐脈）	0
--------------------------------	---

計	6
---	---

TOLAC	VBAC成功	VBAC不成功
-------	--------	---------

1	1
---	---

産科臨床統計 V

(2019.1.1~2019.12.31)

○ 遺伝カウンセリング

症例数

出生前染色体検査に関するもの	369	
高齢妊娠		247
不安（35歳未満）		43
NT肥厚		51
胎児異常		7
染色体異常児妊娠既往		12
染色体転座保因者		1
非確定的検査:ハイリスク		5
前児胎児異常		3
遺伝子疾患に関するもの	8	
Mitheil-Rily症候群		1
筋強直性ジストロフィ		2
脊髄小脳変性症Ⅰ型		1
表皮水泡症		1
エメリドレイフス型ジストロフィ		1
脊椎肋骨異型性症		1
Leigh脳症		1
流死産絨毛の遺伝学的検査		
染色体異常疑い		
多発性嚢胞腎		
計	377	

○ 出生前染色体検査：非確定検査

血清マーカー	35
First trimester screening	137
NIPT	157
検査数の合計	329

Gynecologic Cancer

Annual Report 2019-2020

(婦人科悪性腫瘍治療年報)

北海道大学病院 婦人科
北海道大学 大学院医学研究科 産婦人科学分野

2019 から 2020 にかけての北大病院における婦人科悪性腫瘍の診療に関する動向

分子標的薬

本年より、新規の経口 PARP 阻害剤ゼジューラ®の使用が開始される。バイオマーカーで限定されず、卵巣癌患者における初回及び再発の維持療法として、効果が期待されている。化学療法後の維持療法としてアバスチンやオラパリブとどう使い分けていくかが今後の課題と考えられる。

低侵襲外科手術

前年度に引き続き、適格者に対して子宮体がん 2 例と子宮頸がん 1 例に対して腹腔鏡とダヴィンチシステムによるロボット支援下低侵襲手術を実施した。

2020 年 11 月現在、登録中および開始予定の主な臨床試験と治験

	疾患	略称		デザイン
1	頸癌	ENGOT-cx11 (MK-3475-A18)	局所進行子宮頸癌を対象に、ペンブ ロリズマブと CCRT の併用療法お よび CCRT 単独療法とを比較する 二重盲検、無作為化、第 III 相試験	Phase III 多施設国際共 同企業治験： MSD
2	頸癌	JCOG1402 (PopCC IMRT-CCRT)	子宮頸癌術後再発高リスクに対する 強度変調放射線治療（IMRT）を用 いた術後同時化学放射線療法の多施 設共同非ランダム化検証的試験実施 計画書	Phase III
3	体癌	JCOG1412 (SEPAL-P3)	リンパ節転移リスクを有する子宮体 癌に対する傍大動脈リンパ節郭清の 治療的意義に関するランダム化第 III 相試験	Phase III
4	体癌	FELICIA Trial	子宮内膜異型増殖症・子宮体癌に対 するメドロキシプロゲステロンとメ トホルミンの併用妊孕性温存療法の 容量反応性試験	Phase III 多施設共同

6	卵巣癌	ENGOT ov-43 (MK-7339-001)	BRCA 変異陰性の進行上皮卵巣癌の未治療患者を対象としたペムプロリズマブ及び化学療法併用投与後に維持療法としてペムプロリズマブ及びオラパリブの併用投与群とペムプロリズマブ及び化学療法併用投与後に維持療法としてペムプロリズマブ単独投与群を化学療法投与群と比較する二重盲検、無作為化、第Ⅲ相試験	PhaseⅢ 多施設国際共同企業試験： MSD
7	卵巣癌	ENGOT-ov45 (ATHENA)	プラチナ製剤をふくむ化学療法による一時治療が奏効した卵巣癌患者を対象に、Rucaparib 及びニボルマブの維持療法を検討する、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対象、第Ⅲ相試験	PhaseⅢ 多施設国際共同企業試験： Clovis Oncology
8	卵巣癌	NRG-GY005 (COCOS)	再発プラチナ抵抗性又は不応性卵巣癌、卵管癌又は原発性腹膜癌女性患者を対象にセジラニブとオラパリブの併用を、セジラニブ単剤又はオラパリブ単剤又は標準的な化学療法を比較するランダム化第Ⅱ/Ⅲ相試験	PhaseⅡ/Ⅲ 企業試験： NRG oncology
9	卵巣癌	MSBM 観察研究	BRCA 関連バイオマーカー（Mutational Signature-absed Biomarker:MSBM）の探索研究	PhaseⅡ
10	卵巣癌	JCOG1203	上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	PhaseⅢ
11	臓器横断的	EPOC1805 (TiFFANY Study)	血液循環腫瘍DNAにFGFR遺伝子異常を有する難治性の治癒切除不能な進行・再発の固形がん患者に対するTAS-120単独療法の有効性及び安全性を評価する多施設共同臨床第Ⅱ相バスケット試験	PhaseⅡ バスケット 多施設共同
12	臓器横断的	EPOC1806 (HERALD trial)	血中循環腫瘍DNAでHER2遺伝子増幅が検出された切除不能固形がん患者を対象とするDS8201a療法の多施設共同臨床第Ⅱ相試験	PhaseⅡ バスケット 多施設共同
13	希少癌	MASTER KEY	Marker Assisted Selective Therapy in Rare cancers: Knowledge database Establishing registry Project	resistry part : date base構築臨床 試験パート： 各種試験

教 育

日本婦人科腫瘍学会腫瘍専門医を目指し、現在 1 名が修練中である。昨年度同様、本年も広汎子宮全摘出術の件数が減少傾向にあるため、申請要件を満たすのに以前より時間がかかる傾向があり対応策を検討する必要がある。

医学部生の教育では5年生のコア科臨床実習を受け入れており、4 週間の長期実習期間中、病棟実習（カンファレンス、回診、診療録記載、処置見学）、手術実習を行っている。産婦人科への重要なリクルートの場合ととらえ、濃厚で有意義な実習となるよう医局員一同積極的に学生と関わっている。ただ、今年度前期はコロナウイルス感染症対策として、病院内での実習が完全に中止を余儀なくされた。代替策として試行錯誤のなかオンライン実習を企画し、ドラマ「コウノドリ」DVD を用いたディスカッションや、臨床推論型の国家試験対策講義、腹腔鏡キットを貸し出しての自宅オンライントレーニングなど趣向を凝らした実習が行われ、どの実習も学生からは大変好評であった。後期からは、密を回避するよう工夫しながら、院内での実習を再開している。

婦人科病棟医長 遠藤大介

北海道大学病院 婦人科病棟

腫瘍グループ

2019年（1月～12月）臨床統計

総入院数 1084（前年
1062）

総手術数 350（前年 355）

腫瘍性疾患の主な手術件数(新規治療)

浸潤子宮頸癌、子宮頸部異形成

開腹 リンパ節郭清を伴う	7
腹腔鏡 リンパ節郭清を伴わない	16
腹腔鏡 リンパ節郭清を伴う	0
ロボット支援trachelectomy	0
ロボット支援広汎子宮全摘出術	1
子宮頸部切除術	44

子宮体癌

開腹 リンパ節郭清を伴わない	4
開腹 リンパ節郭清を伴う	20
腹腔鏡 リンパ節郭清を伴わない	15
腹腔鏡 リンパ節郭清を伴う	4

卵巣卵管腹膜癌、境界悪性腫瘍

開腹 リンパ節郭清を伴わない	17
開腹 リンパ節郭清を伴う	13

外陰癌

1

陰癌

0

絨毛性疾患

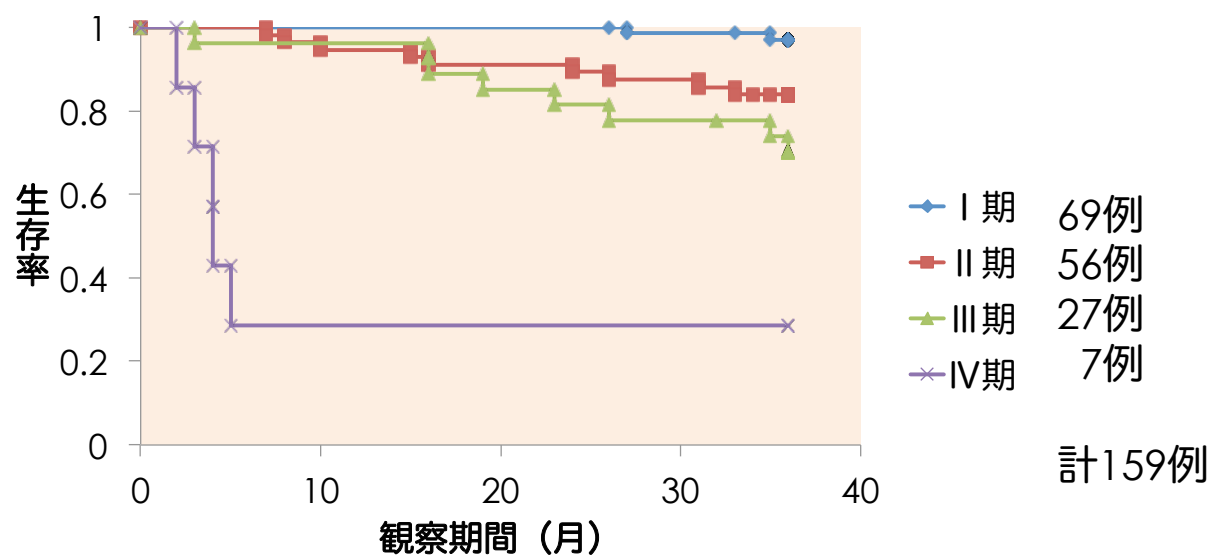
胞状奇胎除去術	4
子宮全摘出術	0

良性疾患の主な手術件数

子宮筋腫核出術	腹腔鏡下および補助下	5
	開腹	1
子宮全摘出術	腹腔鏡下および補助下	21
	開腹	17
子宮附属器腫瘍摘出術	腹腔鏡	40
	開腹	15
子宮鏡手術	単独	27
その他		78

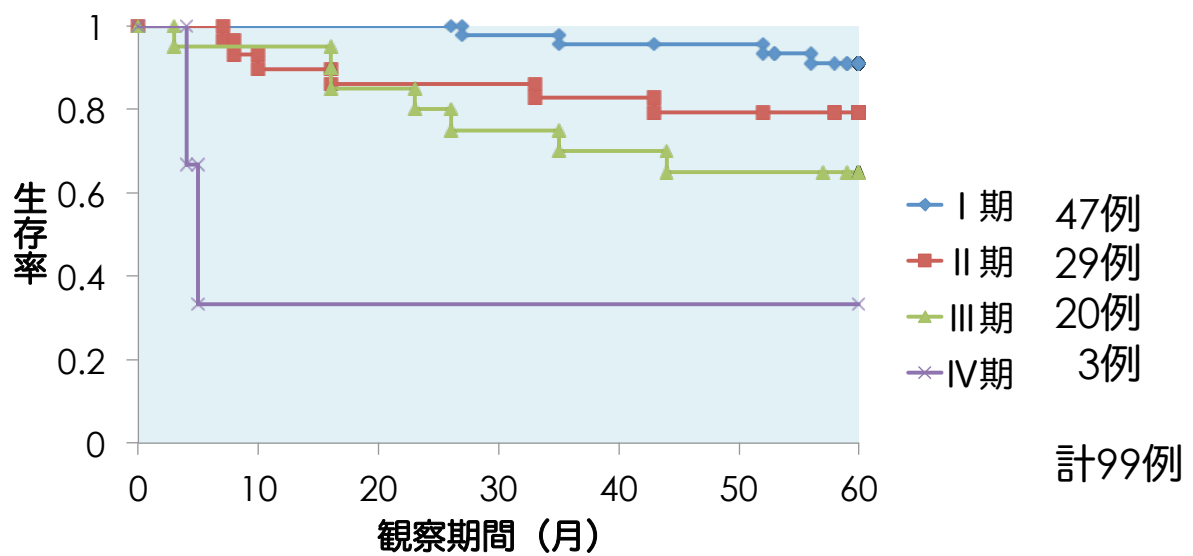
子宮頸癌

2012-2017治療開始患者の3年生存率



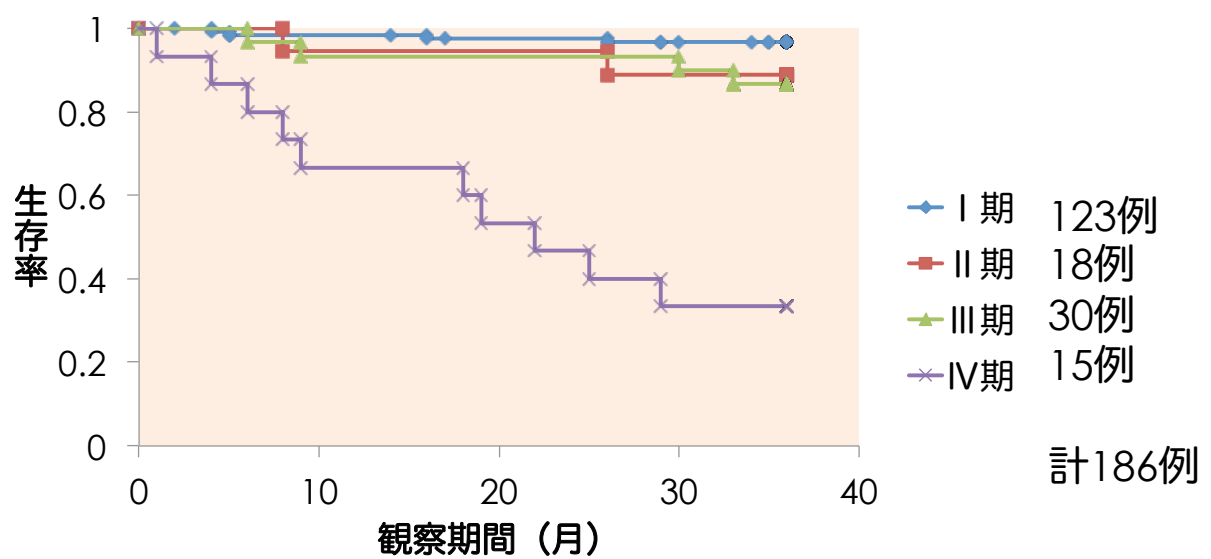
子宮頸癌

2012-2015治療開始患者の5年生存率



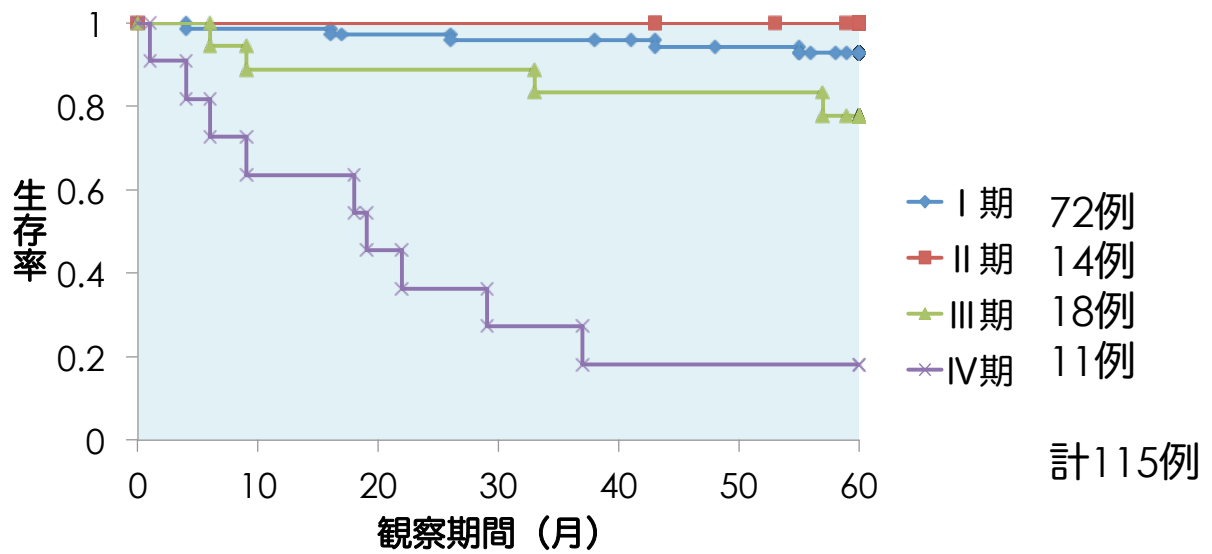
子宮体癌

2012-2017治療開始患者の3年生存率



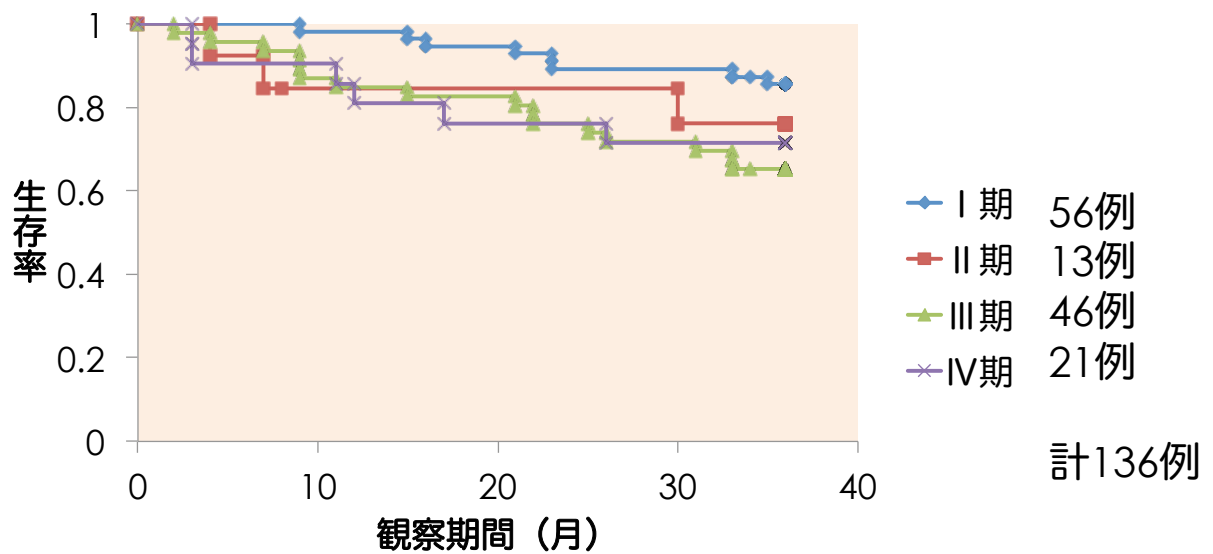
子宮体癌

2012-2015治療開始患者の5年生存率



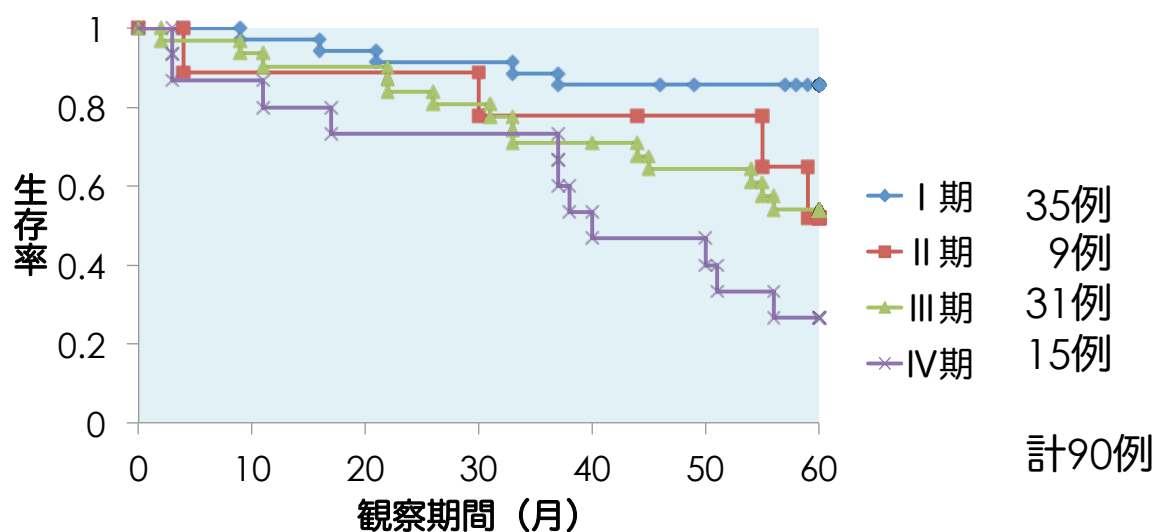
卵巣癌

2012-2017治療開始患者の3年生存率



卵巣癌

2012-2015治療開始患者の5年生存率



進行中・開始予定の治験

対象疾患	治験薬 vs 対象薬
進行性子宮頸癌	CCRT+ペンブロリズマブ VS CCRT
術後再発高リスク子宮頸癌	強度変調放射線治療 (IMRT) を用いた CCRT (非ランダム化試験)
進行性子宮体癌	骨盤リンパ節郭清群 VS 骨盤+傍大動脈リンパ節郭清群
MSBM陽性 卵巣癌	オラパリブ vs プラセボ
進行上皮性卵巣癌	- カルボプラチン/パクリタキセル/ペンブロリズマブ 維持期オラパリブ - カルボプラチン/パクリタキセル/ペンブロリズマブ 維持期プラセボ - カルボプラチン/パクリタキセル/プラセボ 維持期プラセボ
血中循環腫瘍 DNA で HER2 遺伝子増幅が検出された切除不能固形がん	DS-8201a (トラスツズマブ デルクステカン) Phase II
再発プラチナ抵抗性または不応性卵巣癌	セジラニブ 単剤又は オラパリブ 単剤
プラチナ製剤を含む化学療法による一次治療が奏効した卵巣癌患者	ニボルマブ 維持療法

周産母子センター新生児統計

(2019.1.1 ~ 2019.12.31)

○ 出生体重区分別の新生児数(院外出生15例を含む)

出生体重区分	新生児数(院外) (死亡数)	
～1,000g	7(0)	(2)
1,000～1,500g	9(2)	(1)
1,500～2,000g	13(4)	(0)
2,000～2,500g	58(2)	(0)
2,500～4,000g	212(7)	(0)
4,000g～	3(0)	(0)
計	302(15)	(3)

○ Apgar Score 区分別の新生児数(院内出生)

Apgar Score (1 分)	新生児数 (死亡数)	
0 ～ 3	13	(3)
4 ～ 6	14	(0)
7 ～10	260	(0)
計	287	(3)

- 1- 23週0日, 315g, 双胎第1子
- 2- 23週0日, 425g, 双胎第2子
- 3- 36週0日, 1125g, Pena-Shokeir症候群, 0d

○ 新生児外来数(産科) 270

○ 新生児外来数(小児科) 1031

外来患者数 (人) 5308

手術数 (件)	腹腔鏡	77
	子宮鏡	39
	(腹腔鏡と同時施行	22)
	その他	7

スクリーニング
LM
ALFIX
LUNA
TLH
付属器腫瘍摘除

25 16 9 7 7 5

ART関連

採卵周期数 110

移植周期数 73 (すべて凍結融解胚を用いた胚移植)

臨床の妊娠数 16 (妊娠率 16/73⇒21.9%)
分娩数 14 (生産率 14/73⇒19.2%)
(患者あたり 14/40⇒35.0%)

病名	北海道大学病院	手瀬源仁金病院	天使病院	市立札幌病院	JCHO北海道病院	札幌厚生病院	北海道がんセンター	KRC札幌医療センター	札幌協和病院	市立千歳市民病院	富良野協和病院	札幌赤十字	西宮中央病院
記載者	産科・産婦人科・産科・産婦人科・産科・産婦人科	和村 真一郎	藤枝 聡子	平山 恵美	山田 俊	香城 健康	藤堂 幸治	涌井 之雄	長島 香	津村 宣彦	堀 保彦	東 正嗣	片岡 留門
外来患者数	896	患者数 2,011	患者数 8,338	患者数 1,490	患者数 561	患者数 857	患者数 1,019	患者数 915	患者数 1,019	患者数 1,488	患者数 928	患者数 3,500	患者数 2,047
再来患者数	20,469	25,771	15,038	19,288	9,111	13,397	16,190	18,779	16,190	12,002	4,723	25,000	13,517
再来/新来 (平均: 10.5 倍)	22.8	12.8	17.9	12.9	16.2	15.6	15.9	20.5	15.9	8.1	5.1	7.1	6.6
産科臨床統計	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数
流産	3 3 3	37 37 37	36 36 36	21 7 14	17 15 15	16 15 15		29 19 10	10 9 9	79 79 79	6 5 5	43 29 14	17 15 2
分娩	287 110 110	550 289 288	612 310 310	591 310 463	474 294 294	461 63 63		523 372 372	347 243 243	531 271 271	128 97 97	1037 839 840	689 218 219
正常分娩	177 161	261 247	302 302	455 404	180 167	45 51		151 146	104 104	264 260	22 31	198 191	451 433
異常分娩	15 15	44 44	34 34	67 89	24 23	6 6		35 35	12 12	137 136	9 9	13 13	208 207
経産分娩 (通産: 重複可)	10 10	44 44	34 34	60 59	23 23	4 4		35 35	12 12	66 66	9 9	13 13	14 14
骨盤位経産分娩	2 2			11 11	1 1	4 4							1 1
無痛分娩								27 27					
TOLAC	3 3			12 12									1 1
帝王切開 (通産: 重複可)	162 40 40	217 72 72	268 103 103	388 219 219	156 105 105	45 6 6		116 29 29	92 18 18	127 23 23	22 1 1	185 53 52	243 94 85
既帝王切開	40 11 11	81 38 38	152 15 15	110 15 15	47 2 2	7 8 8		29 10 10	35 1 1	53 7 7	5 5 5	57 7 7	79 25 25
子宮手術後	24 9 9	23 16 16	23 23	22 41	24 12	7 5		12 10	18 9	21 7	5 7	14 31	14 14
胎児機能不全	19 19	20 20	35 35	34 34	20 20	5 5		13 13	10 10	22 22	5 5	36 36	36 36
分娩停止	16 16	14 14	21 21		12 12			5 5	6 6	3 3		6 6	6 6
胎児異常	27 27			186 186	31 31	16 16		32 32	21 21	33 33		27 27	48 48
その他	47 5 5	72 3 3	103 6 6	219 28 28	105 3 3	6 3 3		29 5 5	18 1 1	23 3 3	1 1 1	53 5 5	94 11 11
早産	22週～27週 28週～35週 36週	5 42 29	6 50 47	87 46 95	96 83 67	6 1 5		29 21 8	18 3 14	23 3 20	1 3 1	52 19 28	85 49 25
多胎	20 20	15 15	22 22	61 60	13 13			5 5		5 5		6 6	17 17
双胎													
品胎	16 4	2 13	9 13	19 41	5 8			1 4		5 5		3 3	5 12
その他				1									
産科合併症 (重複可)													
HDP	18	60	45	46	36	10		7	7	205		34	348
HELLP		3	1	5				1	1	22	2	1	71
子癇		1		1									
DM	28	42	86	79	91	26		38	31	72	6	131	73
GDM	8	3	3	23	5	3		5	2	10	4	5	4
over DM	2	3	3	11	2			2				3	3
胎盤異常	2	8	1	9	5			4		3		2	5
全前置胎盤	1	5	8	9	3			4		5		3	5
部分・辺縁前置胎盤	1	16	7	13	5	2		1		1		3	5
癒着胎盤	5	6	4	4	4	1		1		3		2	5
低置胎盤	5	35	13	33	15	1		4		3		7	17
常位胎盤早期剥離	14	1	13	4	8	6		11		89		4	37
FGR	45	64	40	24	39			4		21		2	132
先天性胎児異常	6	6	1							40		2	2
胎盤出血	1	1	1							1		4	9
人口流産	15												
12週未満	40	45	43	105	107			10		2		17	65
12週以降					8	3		3		19			2
母体搬送 (救急車による搬送)													
搬入搬出													
新生児	75 59	107 101	113 100	238 197	102 94	1 1		51 51	31 30	32 31	8 8	101 89	127 110
使出生体重児	64 6	49 6	104 1	98 32	91 6	1		51 51	30 1	31 1	8 8		104 10
1500-2499g													
1000-1499g													
-999g													

病院名	北海道大学病院	手稲区仁金病院	天使病院	市立札幌	JCHO北海道病院	札幌厚生病院	北海道がんセンター	KKR札幌医療センター	動医協札幌病院	市立千歳市民病院	富良野協会病院	札幌赤十字	函館中央病院
婦人科臨床統計	症例数	81	2	55	症例数	68	症例数	42	症例数	17	症例数	66	症例数
	浸潤癌	99				3	302	8		4		14	28
	子宮頸癌	26		5		3	92	1		1		5	5
	子宮体癌	44		28		34	121	20		9		30	12
	卵巣癌	22	2	19		12	64	13		4		20	10
	その他の癌(悪性腫瘍)	7		3		19	25	1				2	1
	子宮内腫瘍	3				4	3						1
	腹膜癌	1		3		15	6					1	
	外陰癌	2				13	3					1	
	陰嚕	1											
	閉塞性尿性腫瘍	14				13				2		2	3
	原発不明癌												
	線毛性疾患	2	2	2		2	2	2	2		1	2	
	胎状奇胎	1			1								
	侵入奇胎	1				1					1		
	絨毛癌			1			2						
	手術	350	52	430	42	387	645	355	154	112		410	362
	子宮頸部悪性腫瘍手術	11				3	39	1	1	2		10	6
	(うち腹腔鏡手術)	4					10					1	
	子宮体部悪性腫瘍手術	44		26		30	110	22	8	6		32	12
	(うち腹腔鏡手術)	19		9		11	66	12				16	
	子宮付属悪性腫瘍手術	34		21		12	54	20	3	1		24	7
	(腹膜癌を含む)												
	外陰、陰嚕根治手術	3					3					1	
	子宮GIN手術	52	11	44	2	58	291	36	12	11		38	59
	円錐切除	43	10	17	2	44	169	25	9	6		37	42
	レーザー凝固	1		19		11	89		1			8	
	子宮全摘	8	1	8		3	33	11	2	5		1	9
	良性子宮頸癌手術	45	9	143	19	164	26	145	30	17		155	95
	(頸嚢嚢を含む)												
	腹腔鏡手術	32	1	75	13	79	14	94	1			117	67
	開腹手術	13	8	43	6	40	11	33	12	9		15	7
	子宮鏡手術	102		22		44	1	17	5			17	15
	腔式手術	3		3		1		1	12	8		6	6
	良性子宮付属腫瘍癌(チヨコレート腫瘍を含まない)手術	51	32	77	16	60	9	76	35	19		85	43
腹腔鏡手術	31	20	70	11	38	6	66	14			80	38	
開腹手術	20	12	7	5	22	3	10	21	19		5	5	
子宮内腺症	5		23	3	11	7	15	4	10		13	36	
腹腔鏡手術	4		23	2	10	6	14	2			13	36	
開腹手術	1			1	1	1	1	2	10				
骨盤腫瘍手術	2		46		4	1	18	29	9		32	12	
子宮奇形、道腫手術	1		1										
その他	102		49	2	45	105	22	32	37		20	92	

病院名	希広厚生病院	旭川厚生病院	宮小牧市立病院	砂川市立病院	王子総合病院	町立中環済病院	八雲総合病院	江別市立病院	新定産生病院	小樽市立病院	合 計
配職者	胎部 理史	光部 兼六郎	藤本 俊郎	(婦) 津田加那子 (産) 山下陽一郎	勘野 真紀	笠原 玲奈	白根 透	中郷 賢二郎	鈴木 賢博	青山 聖美	
外来患者数	患者数 2,338	患者数 1,625	患者数 1,596	患者数 1,333	患者数 1,249	患者数 945	患者数 1,210	患者数 904	患者数 1,322	患者数 1,163	患者数 30,897
再入院率 (平均: 10.5 倍)	32,227	20,787	14,206	11,687	13,841	7,890	4,132	10,268	7,462	4,601	324,454
	13.8	12.8	8.9	8.8	11.1	8.3	3.4	11.4	5.6	4.0	10.5
産科臨床統計	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数	症例数 胎児数 母体数
流産	52 40 12	52 40 12	42 32 10	21 18 3	19 17 2	16 15 1	14 14 14	7 6 1	22 20 2	1 1 1	504 418 81
分娩	977 713 264	808 295 251	595 421 182	501 354 147	292 234 58	224 205 21	173 126 47	455 376 79	283 232 51		10,636 6,609 3,993
正常分娩	16 15	22 37	295 37	12 12	10 10	4 4	12 7		1 1		977 443
異常分娩	22 1	302 5	27 5	12 5	10 5	4 4	12 7		1 2		1,011 442
経膈分娩 (通気:重複可)											10
吸引分娩											23
骨盤位経膈分娩											41
双胎											22
無痛分娩											
TOLAC											
帝王切開 (通気:重複可)	248	229	154	135	48	17	35	79	50		3,015
既往帝王切開 子宮手術後	91	72	64	44	23	11	19	39	26		2,825
胎児機能不全	11	8	4	4	2			1			1,091
分娩停止	20	22	14	26	5	3	6				144
胎位異常	14	25	11	20	7			5	6		330
多胎	43	14	12	13	6	3	7	10	8		295
その他	19	10	8	5	7		3	9	2		369
早産	87 6 46 46	91 4 58 29	57 6 29 22	27 6 8 17	10 3 7	7 7 7	0 0 2	12 12 11	12 10 9		1,086 76 525 485
22週～27週											
28週～35週											
36週											
多胎	20	17	8	5				1	3		218
双胎	19	17		5				1	3		216
(MM)											0
(MD)	6	3	2	3							74
(DD)	13	14	6	2				1	3		142
品胎											0
その他	1										1
産科合併症 (重複可)											0
HDP	37	34	14	18	7	4		41			1,016
HELLP			2				5		10		491
子癇							1				13
DM	14		21	25	5	9		27	10		3
GDM	7	2	1		1				1		870
胎盤異常	2	1	2						1		83
全前置胎盤	6	4	2		1						29
部分・辺縁前置胎盤								1			51
癒着胎盤											48
低置胎盤	2	7	1	5	1						65
常位胎盤早期剝離	1	5	6	2	1				1		42
FGR	10	28	18	4					3		253
先天性胎児異常	1	10	2					1			112
胎盤出血											607
人口産産	2	4	9	7				23	14		151
12週未満			1					5			61
12週以降			37								533
母体搬送 (救急車による搬送) 搬入 搬出	6	56									87
新生児											
低出生体重児	108	95	118	109	77	71	6	11	34	27	1,392
1500~2499g	94	81	99	91	68	62	6	11	34	27	1,216
1000~1499g	10	10	14	13	3	3					99
-999g	4	4	5	5	6	6					77

病 院 名	帝広厚生病院	旭川厚生病院	苫小牧市立病院	砂川市立病院	王子総合病院	町立中標津病院	俱知安厚生病院	八雲総合病院	江別市立病院	帯広厚生病院	小樽市立病院	合 計
婦人科臨床統計												
浸潤癌	症例数 87	症例数 68	症例数 15	症例数 12	症例数 61	症例数	症例数	症例数 5	症例数 4	症例数 11	症例数 48	症例数 1,083
子宮頸癌	30	18	4	2	12						11	248
子宮体癌	33	32	4	3	24			3	4	7	21	470
卵巣癌	21	17	5	2	20			2		4	13	284
その他の癌(悪性腫瘍)	3	1	2	5	5						3	81
子宮肉腫	3	1	1	1	3						1	23
子宮肉腫		1	1	3	1						1	40
外陰癌				1	1						1	12
陰嚕癌										2	4	99
陰嚕癌	10	6	3	2								4
原発不明癌		1	0									
線毛性疾患	6	1	1	1	2	3	1				1	35
胎状奇胎	5				2						1	26
侵入奇胎	1				2						1	8
絨毛癌			0									1
手術	435	474	175	153	280	24	28	30	88	55	248	6,915
子宮頸部悪性腫瘍手術	4	12	2		6				3		8	121
(うち腫瘍手術)	10	2							2		31	
子宮体部悪性腫瘍手術	23	32	3	2	26			1	2	1	22	449
(うち腫瘍手術)	11	13			8				4		4	185
子宮付属器悪性腫瘍手術	21	22	4	3	5				1	3	22	326
(腫瘍を含む)												
外陰、陰嚕根治手術			0		0							7
子宮がん手術	71	78	30	36	29	7	12	4	19	9	23	1,024
円錐切除	60	74	29	30	28	6	12	4	14	3	22	751
レーザー蒸気		1				1				5	1	150
子宮全摘	11	3	1	6	1				5	1		123
良性子宮腫瘍手術	131	144	56	65	92	7	11	14	26	18	63	2,289
(腫瘍を含む)												
腹腔鏡手術	70	109	30	37	43			7	11	2	37	1,553
開腹手術	29	25	18	20	38	2	1		12	12	18	387
子宮鏡手術	26	8	5	8	11			3	3	4	7	298
腔式手術	6	2	3			5	10	4			1	71
良性子宮付属器腫瘍	98	58	40	37	65	1	4	6	18	16	50	1,053
(子宮コロート腫瘍を含まない) 手術												
腹腔鏡手術	78	45	33	33	39			3	15	8	42	824
開腹手術	20	13	7	4	26	1	4	3	3	8	8	229
子宮内腫症	24	34	9	1	10		1	2	4	1	18	327
腹腔鏡手術	22	32	8	1	10			2	4	1	17	303
開腹手術	2	2	1				1				1	24
骨盤臓器脱手術	20	27	5		23	5			8	7	23	282
子宮奇形、造腔手術												2
その他	43	67	26	9	24	4		3	7		19	1,035
生殖医療統計												
ART	周期数	周期数	周期数	周期数	周期数	周期数	周期数	周期数	周期数	周期数	周期数	周期数
採卵数	患者数	患者数	患者数	患者数	患者数	患者数	患者数	患者数	患者数	患者数	患者数	患者数
(IVF)												277
(ICSI)												111
(その他)												19
胚移植												103
新鮮胚												50
凍結胚												61
新鮮胚												52
凍結胚												311
分焼												195
その他、特色ある医療												11
												9
												300
												89
												87
												88
												70
												66
												66
												0
												0
												66
												52
												21
												2

学会・研究会発表（筆頭演者分のみ）

（2019年11月～2020年10月）

（＊過年度未掲載分）

特別講演 一般

シンポジウム等 講演

第10回千歳臨床医学研究会＊	2019年2月2日	（千歳）	1	
第34回日本女性医学学会学術集会	11月2-3日	（福岡）	3	
The 21st International Meeting of the European Society of Gynaecologic Oncology	11月2-5日	（アテネ）	2	
第64回日本生殖医学会学術講演会	11月7日	（神戸）	1	
14th World congress of the International Society for Immunology of Reproduction	11月13-16日	（奈良）	1	
第52回小児呼吸器学会	11月15-16日	（鹿児島）	1	
第72回道南医学会	11月16日	（函館）	1	
第58回日本臨床細胞学会秋期大会	11月16-17日	（岡山）	3	
Health Protection Scotland Butterfield Meeting	11月20日	（グラスゴー）	1	
Cerviva HPV Awareness Symposium	11月22日	（ダブリン）	1	
第35回日本糖尿病・妊娠学会	11月22-23日	（東京）	1	
第20回北海道産婦人科低侵襲手術研究会	11月23日	（札幌）	10	
第23回北海道出生前診断研究会	11月23日	（札幌）	1	
第64回日本新生児成育医学会学術集会	11月27-29日	（鹿児島）	2	
Edinburg University Butterfield Meeting	11月29日	（エディンバラ）	1	
EUROGIN 2019	12月4-7日	（モナコ）	5	
第32回日本内視鏡外科学会総会	12月5-7日	（横浜）	1	4
Hot topics in Neonatology 2019	12月8-11日	（ナショナルハーバー）	1	
第41回エンドメトリオーシス学会学術講演会	2020年1月18-19日	（山口）	5	
第8回婦人科バイオマーカー研究会学術集会	2月8日	（横浜）	1	
第62回北海道生殖医学会総会・学術講演会	2月8日	（札幌）	1	
第12回日本ロボット外科学会	2月22日	（東京、WEB）	4	
第42回日本産婦人科手術学会・第8回日本婦人科ロ ボット手術学会	2月22-23日	（京都）	2	4
第72回日本産科婦人科学会学術講演会	4月23日-5月11日	（東京、WEB）	4	20
ASCO Annual Meeting 2020	5月28-31日	（シカゴ、WEB）	1	
第61回日本臨床細胞学会総会春期大会	6月20日-7月19日	（神奈川、WEB）	2	
The 33rd International Papillomavirus Conference	7月20-24日	（ハルセロ、WEB）	1	
第26回日本遺伝性腫瘍学会学術集会	8月21-31日	（大阪、WEB）	2	
The 2020 xDigital Annual Global Meeting of IGCS	9月10-13日	（ローマ、WEB）	7	
第61回日本母性衛生学会学術集会	10月9-10日	（浜松・WEB）	1	
第123回日本小児科学会学術集会	10月21日-11月20日	（名古屋、Web）	1	
計			9	88
令和元年			28	172
平成30年			28	178
29年			23	180
28年			25	173

国内学会・研究会

(2019 年 11 月～2020 年 10 月)

(※：過年度未掲載分)

第 10 回千歳臨床医学研究会
津村宣彦 「卵巢腫瘍により発見された悪性リンパ腫の一例」 2019 年 2 月 2 日 (千歳) *

第 34 回日本女性医学学会学術集会 11 月 2-3 日 (福岡)
金川明功 「当院での腹腔鏡下仙骨腔固定術」
野村英司 「骨盤内うっ血症候群 (PCS) における慢性骨盤痛を腹腔鏡下手術にて治療し得た 1 例」
細川亜美 「続発性無月経を主訴として当科を受診した陸上選手の 6 症例」

第 64 回日本生殖医学会学術講演会 11 月 7 日 (神戸)
和田真一郎 「ART 妊娠の周産期予後への影響 -多変量解析による当院 2685 分娩の解析-

第 52 回小児呼吸器学会 11 月 15-16 日 (鹿児島)
恩田哲雄 「原因不明の小児肺高血圧症における FOXF1 遺伝子診断の有用性の検討」

第 72 回道南医学会 11 月 16 日 (函館)
片岡宙門 「道南における分娩数と早産率の推移」

第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会 11 月 16-17 日 (岡山)
石塚泰也 「子宮頸部明細胞癌の 2 例」
松宮寛子 「子宮内膜大細胞神経内分泌癌の一例」
山田竜太郎 「子宮体癌センチネルリンパ節生検の術中迅速診断における TRLBC の有用性」

第 35 回日本糖尿病・妊娠学会 11 月 22-23 日 (東京)
森川 守 「妊娠糖尿病の妊娠高血圧症候群による胎児発育不全への影響」

第 20 回北海道産婦人科低侵襲手術研究会 11 月 23 日 (札幌)
東 正樹 「腹腔鏡下で再発腫瘍切除を行った腹膜偽粘液腫の 1 例」
飯沼洋一郎 「腹腔鏡下子宮頸癌手術におけるセンチネルリンパ節生検」
石塚泰也 「経腔的な子宮頸管縫縮術が施行困難で腹腔鏡下に頸管縫縮術を施行した 1 例」
小舘英明 「腹腔鏡下手術後に妊娠に至った片側腎欠損を伴う非交通性副角子宮を有する子宮奇形の 1 症例」
中島亜矢子 「原発不明癌性胸膜炎のため審査腹腔鏡を行い、右卵管癌と診断した 1 例」
藤井タケル 「当科における卵巢チョコレート嚢胞に対するエタノール固定術施行例の検討」
藤井タケル 「子宮内膜に接した子宮筋層内筋腫が有茎性粘膜下筋腫となり、筋腫摘除後に自然妊娠が成立した 1 例」
山崎博之 「当科でのロボット支援手術導入の経験と短期成績」
山本竜太郎 「子宮体癌に対するセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の導入」
米原利栄 「妊娠中に腹腔鏡下副腎摘出術を行った Cushing 症候群の一症例」

第 23 回北海道出生前診断研究会 11 月 23 日 (札幌)
山本竜太郎 「出生前に診断し得た前置血管の一例」

第 64 回日本新生児成育医学会学術集会 11 月 27-29 日 (鹿児島)
池田雅彦 「FOX1 上流の欠失により ACDMPV を発症した一家系」
中村雄一 「3-メチルグルタコン酸尿症 7 型の 1 例」

第 32 回日本内視鏡外科学会総会 12 月 5-7 日 (横浜)
工藤正尊 (シンポジウム) 「生殖外科として子宮内膜症の腹腔鏡手術を考える」
飯沼洋一郎 「TLH における噴霧式合成吸収性癒着防止剤の効果」
小田切哲二 「子宮頸部筋腫核出術時にフラップ法を用いた 1 例」
森脇征史 「婦人科手術におけるトロカー配置の検討」
山本竜太郎 「膀胱鏡併用腹腔鏡下膀胱部分切除を行った膀胱子宮内膜症の一例」

第 41 回エンドメトリオーシス学会学術講演会 2020 年 1 月 18-19 日 (山口)
石塚泰也 「McCune-Albright 症候群で子宮腺筋症のため TLH を施行した 1 例」
小田切哲二 「帝王切開癒着部に発生した腹壁子宮内膜症の 1 例」
工藤正尊 「我々の行う腹腔鏡下子宮内膜症病巣除去術の際のダグラス窩開放手技の変遷」
藤井タケル 「子宮内膜症による尿管狭窄部癒着切除で水腎症が改善した 2 症例」
和田真一郎 「腹腔鏡により腸管切除を施行した腸管子宮内膜症 8 症例の治療経過の分析」

第 8 回婦人科バイオマーカー研究会学術集会 2 月 8 日 (横浜)
朝野拓史 「子宮体癌における予後不良バイオマーカーとしての L1CAM」

第 62 回北海道生殖医学会総会・学術講演会 2 月 8 日 (札幌)
藤井タケル 「当科における卵巣チョコレート嚢胞に対するエタノール固定術」

第 12 回日本ロボット外科学会 2 月 22 日 (東京, WEB 配信)
藤堂幸治 「子宮頸癌 T1b1 または 2a1, N0 症例におけるロボット支援下広汎子宮全摘術」
福士義将 「ロボット支援腹腔鏡下膀胱部分切除術および子宮全摘術を施行した膀胱子宮内膜症および子宮腺筋症の 1 症例」
松宮寛子 「ロボット支援下子宮全摘術におけるダブルバイポーラ法の経験」
山崎博之 「道東地区へのロボット支援手術導入の経験と短期成績」

第 42 回日本産婦人科手術学会・第 8 回日本婦人科ロボット手術学会 2 月 22-23 日 (京都)
櫻木範明 (特別企画) 「藤井信吾塾 ～未編集ビデオの閲覧を通して手術の様々な問題点を忌憚なく語り合う会～」
光部兼六郎 (ランチョンセミナー) 「地方から発信する婦人科がん低侵襲治療」
石塚泰也 「腹腔鏡下子宮頸管縫縮術を施行した 5 症例」
工藤正尊 「当科における浸潤子宮頸癌に対するロボット支援腹腔鏡下手術」
森脇征史 「付属器摘出術後に水腎症を発症した Ovarian remnant syndrome の 1 例」
藤井タケル 「骨形成不全症 (Osteogenesis Imperfecta) 患者に対して TLH を行った 1 例」

第 72 回日本産科婦人科学会学術講演会 4 月 23 日-5 月 11 日 (東京・WEB 配信)
渡利英道 (指導医講習会) 「2020 年の産婦人科研修再必修化にむけて」
藤堂幸治 (生涯研修プログラム) 「初期子宮頸部浸潤癌におけるロボット支援下広汎子宮

	全摘術」
藤堂幸治	(ビデオセッション)「ロボット支援下広汎子宮全摘出術」
眞山学徳	(サステイナブル医療体制確立委員会・産婦人科未来委員会合同企画)「時間外労働に関するアンケート結果報告」
赤羽慧一郎	「Attenuation Imaging を用いた新しい胎盤評価法」
朝野拓史	「L1CAM は系統的リンパ節郭清及び術後補助化学療法を施行した子宮体癌症例における独立予後不良因子である」
安藤里沙	「切除不能腔原発悪性黒色腫に対して長期のニボルマブ投与後にダカルバジンが著効した1例」
飯沼洋一郎	「腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術における ICG 蛍光法を用いたセンチネルリンパ節生検の導入」
石塚泰也	「子宮頸部すりガラス細胞癌の NGS 解析」
小川 栞	「子宮体部原発大細胞神経内分泌癌の一例」
川崎 彩	「新規進行期分類 (FIGO2018) に再分類した子宮頸癌患者の予後の検討」
工藤ありさ	「卵巣腫瘍との鑑別が困難であった後腹膜神経鞘腫の1例」
徐 道知	「MicroRNA-361 directly targets HSP90 to repress EMT and in-vasion in cervical cancer cells」
董 培新	「Long non-coding RNA NEAT1 drives aggressive endometrial cancer progression via sponging microRNA-361」
古田伊都子	「尿中 Placental growth factor による妊娠高血圧腎症の発症予知」
松宮寛子	「センチネルリンパ節転移の術中診断における Tissue rinse liquid-based cytology の有用性～孤立性腫瘍細胞と微小転移を区別する」
眞山学徳	「The effect of low platelet count on the timing of termination of pregnancy in early onset hypertensive disorders of pregnancy」
三田村 卓	「BRCA1/2 pathogenic variant を有する卵巣・卵管・腹膜癌患者におけるリンパ節転移に関する臨床研究」
見延進一郎	「化学療法抵抗性あるいは部分感受性再発卵巣/卵管/腹膜癌におけるベバシズマブ関連高血圧と無増悪生存期間の関係」
森川 守	「わが国における産科領域の血栓塞栓症 VTE に関する全国調査」
森脇征史	「卵巣子宮内膜症性嚢胞に対する付属器摘出術を考えるー水腎症を発症した Ovarian remnant syndrome の症例からー」
山崎博之	「リンチ症候群スクリーニングとしての子宮体下部癌の定義について」
山田竜太郎	「子宮体癌におけるセンチネルリンパ節の術中迅速診断に基づくナビゲーション手術の前方視的研究」
和田真一郎	「腹腔鏡手術後の肩痛発症のリスクに関する検討」

第 61 回日本臨床細胞学会総会春期大会 6 月 20 日-7 月 19 日 (神奈川, WEB 配信)

見延進一郎	「化学療法抵抗性あるいは部分感受性再発癌におけるベバシズマブ関連高血圧と無増悪生存期間の関係」
山田竜太郎	「TRLBC 法によるセンチネルリンパ節転移の術中迅速診断における診断所見について」

第 26 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 8 月 21-31 日 (大阪, WEB 配信)

藤堂幸治	「MRI を用いた画像診断は Lynch syndrome の拾い上げ増加に貢献するか」
山田竜太郎	「子宮体下部癌と家族歴より Lynch 症候群を疑い, ミスマッチ修復遺伝子 (MMR) の遺伝学的検査を施行, Lynch 症候群と確定診断し, その家系員に介入した一家系の報告」

第 61 回日本母性衛生学会学術集会 10 月 9-10 日（浜松, WEB 配信）
森川 守 （ランチョンセミナー）「分娩後異常出血への対応～産褥婦を救いたい」

第 123 回日本小児科学会学術集会 10 月 21 日-11 月 20 日（名古屋, Web 配信）
中村雄一 「High Flow Nasal Cannula で在宅医療へ移行した 18 トリソミーの 2 例」

国際学会

(2019 年 11 月～2020 年 10 月)

The 21st International Meeting of the European Society of Gynaecologic Oncology
(Athens, Greece)
Nov 2-5, 2019

Noriaki Sakuragi: Nerve-sparing radical hysterectomy developed for precision surgery and its role in local control of cervical cancer: a retrospective cohort analysis.

Yukiharu Todo: Bevacizumab-related gastrointestinal perforation in patients with three or more prior chemotherapy regimens: A real-world experience.

14th World congress of the International Society for Immunology of Reproduction
(Nara, Japan)
Nov13-16, 2019

Yasuhiko Ebina : (Symposium)Helper, cytotoxic, and regulatory T cells in the decidua from miscarriage.

Health Protection Scotland Butterfield Meeting
(Glasgow, Scotland)
Nov. 20, 2019

Sharon Hanley: HPV Vaccination in Japan: Update on an increasingly intractable Issue.

Cerviva HPV Awareness Symposium
(Dublin, Ireland)
Nov. 22, 2019

Sharon Hanley: HPV Vaccination in Japan: Update on an increasingly intractable Issue.

Edinburg University Butterfield Meeting
(Edinburgh, Scotland)
Nov. 29, 2019

Sharon Hanley:Challenges of Primary and Secondary HPV Associated Disease Prevention: Dispatches from the Eye of the Storm.

EUROGIN 2019
(Monaco, Monaco)
Dec. 4-7, 2019

Sharon Hanley: Japan and UK Collaboration to Support HPV-based Interventions for the Prevention of Cervical Cancer.

Sharon Hanley: Public Health Impact of HPV Vaccines.

Sharon Hanley: Australia: Experience with self-sampling from the national cervical screening program.

Sharon Hanley: How to act against fake news, anti-vaccination movements and

manipulation of public opinion.

Sharon Hanley: HPV Vaccination in Asia- Successes and Challenges.

Hot topics in Neonatology 2019

(National Harbor, USA)

Dec.8-11, 2019

Tetsuo Onda : The usefulness of FOXF1 analysis for infantile pulmonary hypertension of unknown origin.

ASCO Annual Meeting 2020

(Chicago, USA WEB)

May. 28-31, 2020

Hiroshi Asano: Low expression of gamma-glutamyl transpeptidase 1 is an independent poor prognostic factor in ovarian clear cell carcinoma, in relation to up-regulation of immune suppressive genes and EMT-related genes.

The 33rd International Papillomavirus Conference

(Barcelona, Spain WEB)

Jul. 20-24, 2020

Sharon Hanley: Predicted Impact of Scaling Up Primary HPV Testing Versus Cytology-Based Cervical Screening in Japan.

The 2020 xDigital Annual Global Meeting of IGCS

(Rome, Italy WEB)

Sep. 10-13, 2020

Hiroyuki Kurosu: Diagnostic criteria of sentinel lymph node micrometastasis or macrometastasis based on tissue rinse liquid-based cytology in gynecological cancer.

Peixin Dong: LncRNA NEAT1-mediated miR-361 downregulation contributes to EMT and sphere formation of cervical cancer cells via increasing HSP90 expression.

Ryutaro Yamada: A retrospective cohort study for feasibility of laparoscopic hysterectomy in patients with stage IA1 cervical cancer.

Shinichiro Minobe: Single-agent amrubicin therapy for recurrent small cell neuroendocrine cervical carcinoma.

Yasunari Ishizuka: Transcriptome analysis of glassy cell carcinoma and mucinous adenocarcinoma compared with squamous cell carcinoma of uterine cervix.

Yosuke Konno: KRAS mutation may be one of the chemo-resistant phenotypes of ovarian clear cell carcinoma.

Yukiharu Todo: A feasibility study of robotic radical hysterectomy in patients with T1b1-1b2/2a1, N0 cervical cancer.

研修会など

(2019 年 11 月～2020 年 10 月)

(※：過年度未掲載分)

文京区 Ovarian Cancer Symposium
渡利英道 「卵巢がん治療アップデート」 2019 年 11 月 13 日 (東京)

道東地区産婦人科医会学術講演会
渡利英道 「子宮肉腫治療の現状と今後の課題」 11 月 15 日 (帯広)

北海道大学病院周産母子センター第 16 回新生児蘇生法「一次」コース講習
古瀬優太 「新生児蘇生法」 11 月 17 日 (札幌)

Fukushima Ovarian Cancer Seminar 2019
渡利英道 「卵巢がん治療アップデート」 11 月 21 日 (郡山)

北海道大学病院周産母子センター第 17 回新生児蘇生法「一次」コース講習
長 和俊 「新生児蘇生法」 11 月 24 日 (札幌)

Cervical Cancer Symposium in Hiroshima
渡利英道 「子宮頸癌の集学的治療について」 11 月 27 日 (広島)

漢方スタートセミナー (第二回)
小林範子 「漢方ことはじめ～漢方薬って何だろう (2)～」 11 月 27 日 (札幌)

第 3 回北海道・東北合同若手腹腔鏡縫合セミナー
黒須博之 「縫合結紮トレーニング メソッド」 11 月 30 日 (青森)

性暴力被害者支援にかかわる看護職養成講座
平山恵美 「性暴力被害者の診療」 11 月 30 日 (札幌)

第 3 回 札幌ドームトレーニング&コンディショニングセミナー
(兼 NSCA ジャパン北海道地域ディレクターセミナー) 11 月 30 日 (札幌)
三國雅人 「AYA 世代の女性アスリートに特有の健康問題について考える」

第 30 回秋田県臨床輸血研究会
森川 守 「分娩後異常出血への対応 (輸血療法を中心に) ～ 産褥婦を救いたい」 11 月 31 日 (秋田)

第 2 回安全管理研修会
古瀬優太 「地域で子供を守る～病院ができる虐待予防～」 12 月 3 日 (中標津)

江別市立病院 産婦人科講演会
渡利英道 「子宮頸癌の集学的治療について」 12 月 26 日 (江別)

医療安全推進研修会 古瀬優太 「児童虐待について」	2020 年 1 月 22 日 (帯広)
Gynecologic Cancer Forum in Tomakomai 渡利英道 「卵巣がん治療アップデート」	1 月 29 日 (苫小牧)
2020 年度札幌病院薬剤師会 がん専門薬剤師セミナー 藤堂幸治 「卵巣癌の薬物治療 オラパリブ(リムパーザ®)の使用経験を中心に」	1 月 30 日 (札幌)
道北産婦人科医会学術講演会 渡利英道 「卵巣がん治療アップデート」	1 月 31 日 (旭川)
道東地区産婦人科医会学術講演会 渡利英道 「子宮頸癌の治療の現状と課題-漢方研究を含めて」	2 月 1 日 (釧路)
第 26 回日本医師会認定健康スポーツ医制度再研修会 小林範子 「女性の貧血とスポーツ」	2 月 1 日 (札幌)
スポーツ医学セミナー～北海道における女性アスリート支援に向けて～ 3 月 14 日 (WEB) 小林範子 「女性アスリートにおける婦人科的支援～月経随伴症状や無月経に対する対策～」	
新生児蘇生法講習会専門コース 長 和俊 「新生児蘇生法」	8 月 18 日 (札幌)
北海道児童思春期精神医学セミナー 古瀬優太 「児童虐待」	9 月 16 日 (札幌, WEB)
武田薬品工業株式会社 MR 向け卵巣がん勉強会 渡利英道 「卵巣がん治療の現状と課題」	9 月 17 日 (東京, WEB)
新生児蘇生法講習会インストラクター・フォローアップコース 長 和俊, 古瀬優太, 本庄遼太 「新生児蘇生法」	9 月 18 日 (札幌)
新生児蘇生法講習会スキルアップコース 長 和俊, 古瀬優太, 本庄遼太 「新生児蘇生法」	9 月 18 日 (札幌)
北海道大学病院研修医セミナー 古瀬優太 「みんなで防ごう子ども虐待」	9 月 29 日 (札幌)
2020 年度北海道リンパ浮腫医療従事者研修会 小林範子 「リンパ浮腫診療の実際」 藤野敬史 「リンパ浮腫総論」	10 月 11 日 (札幌, WEB)
自己採取 HPV 検査研究会～これからの子宮頸がん検診を考える シャロン・ハンリー 「自己採取 HPV 検診の考え方-海外」	10 月 16 日 (札幌)

もっと女の子が HAPPY！に生きる ～自分の身体を知り，自分でコントロールする

10 月 25 日（富山，録画配信）

シャロン・ハンリー「子宮頸がんを予防しよう①HPV ワクチンについて」

シャロン・ハンリー「世界の女の子の健康はどう守っているの？」

これから始める漢方スタートセミナー

10 月 27 日（WEB）

小林範子 「女性と漢方」

JCHO 北海道病院研修医セミナー

10 月 28 日（札幌，WEB）

古瀬優太 「児童虐待について」

2020 年度手稲溪仁会病院セミナー

10 月 30 日（札幌，WEB）

藤堂幸治 「卵巣癌の薬物治療 オラパリブ（リムパーザ®）の使用経験を中心に」

業績一覧

2019 年 11 月～2020 年 10 月

過年度未掲載分を含む

	英 文	和 文	計
編 集	0	1	1 (1)
著 書	0	16	16 (30)
総 説	2	12	14 (27)
原 著	37	10	47 (36)
症 例	2	7	9 (8)
その他	0	6	6 (7)
計	41 (34)	52 (75)	93 (99)

() は昨年度

論文業績は以下に示すカテゴリーに大別する。筆者著者の50音順，アルファベット順に記載してある。

1. 著書：教科書，単行本
 - (ア) 単著：単名で執筆した著書
 - (イ) 共著：共同で著書あるいは著書の一部の章を執筆したもの。
2. 総説：あるテーマについて既報の論文をレビューするなどして解説したもの。
3. 原著：自分自身のオリジナルな研究に基づいて新しい事実あるいは結論を報告したもの。最も重要な論文である。速報性が重視される研究結果を報告するRapid Communicationもここに含める。
4. 症例報告：極めて稀な疾患あるいはこれまで報告されていない診断・治療の結果について報告するもの。1例報告や数例をまとめたcase seriesがある。

編 集

2019 年 11 月～2020 年 10 月

1. 金内優典 他 (2020) : 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2020 年版, 金原出版, 東京

著 書

2019 年 11 月～2020 年 10 月

単著

なし

共著

英文

なし

和文

1. 長 和俊 (2020) : 早産児の呼吸器疾患に対するステロイド療法. 新版 新生児内分泌ハンドブック 新生児内分泌研究会編著, メディカ出版, 大阪, pp244-52
2. 三田村卓 (2020) : CQ13 初回手術とその後の化学療法により腫瘍が残存した場合, 追加治療は奨められるか? 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2020 年版, 日本婦人科腫瘍学会 編, 金原出版, 東京, pp102-4
3. 三田村卓 (2020) : CQ14 初回化学療法としてパクリタキセルとカルボプラチン併用療法を施行できない場合に, どのようなレジメンが奨められるか? 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2020 年版, 日本婦人科腫瘍学会 編, 金原出版, 東京, pp105-6
4. 三田村卓 (2020) : CQ15 I 期患者に対して, 術後化学療法の省略は奨められるか? 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2020 年版, 日本婦人科腫瘍学会 編, 金原出版, 東京, pp107-9
5. 三田村卓 (2020) : CQ16 組織型別に化学療法のレジメンを変更することは奨められるか? 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2020 年版, 日本婦人科腫瘍学会 編, 金原出版, 東京, pp110-2
6. 三田村卓 (2020) : CQ17 進行例に対して初回化学療法を行う場合, 腹腔内化学療法は奨められるか? 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2020 年版, 日本婦人科腫瘍学会 編, 金原出版, 東京, pp113-5
7. 森川 守 (2020) : CQ 004-3 妊娠・産褥期に深部静脈血栓塞栓症 (DVT) や肺塞栓症 (PTE) の発症を疑ったら? 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020, 公益社団法人日本産科婦人科学会・公益社団法人日本産婦人科医会, 東京, pp18-21

8. 森川 守 (2020) : CQ 309-3 妊産褥婦がけいれんを起こしたときの対応は？ 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020, 公益社団法人日本産科婦人科学会. 公益社団法人日本産婦人科医会, 東京, pp177-80
9. 森川 守 (2020) : CQ414 「助産ケア中心の妊娠・出産支援システム」の対象にできる妊娠および分娩とその管理は？ 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020, 公益社団法人日本産科婦人科学会. 公益社団法人日本産婦人科医会, 東京, pp241-4
10. 森川 守 (2020) : CQ901 妊娠中のシートベルト着用, および新生児のチャイルドシート着用について尋ねられたら？ 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020, 公益社団法人日本産科婦人科学会. 公益社団法人日本産婦人科医会, 東京, pp369-71
11. 森川 守 (2020) : (第1章)周産期分野 産科 DIC. 産科と婦人科 87 巻 Suppl, 大須賀穰, 高松 潔, 田中 守, 渡部 洋編, 株式会社診断と治療社, 東京, pp93-96
12. 森川 守 (2020) : 産科編 妊娠初期 Q034 予防接種(風疹, 麻疹, おたふくかぜ)の1ヵ月後に妊娠と判明しましたが？ 周産期医学 49 巻増刊, 東京医学社, 東京, pp80-2
13. 森川 守 (2020) : 産科編 妊娠初期 Q035 HBs 抗原陽性といわれましたが？ 周産期医学 49 巻増刊, 東京医学社, 東京, pp83-5
14. 森川 守 (2020) : 産科編 妊娠初期 Q036 クラミジアに感染しているといわれましたが？ 周産期医学 49 巻増刊, 東京医学社, 東京, pp86-7
15. 渡利英道, 金野陽輔 (2020) : 7 子宮体がんの手術療法. 婦人科腫瘍治療アップデート, 岡本愛光 編, 中外医学社, 東京, pp250-4
16. 渡利英道 (2020) : 卵巣癌・卵管癌・原発性腹膜癌. 今日の治療指針 2020 年版, 福井次矢, 高木 誠, 小室一成 編, 医学書院, 東京, pp1365-8

総 説

2019 年 11 月～2020 年 10 月

(＊：過年度未掲載分)

英文

1. Dong P, Xu D, Xiong Y, Yue J, Ihira K, Konno Y, Watari H. The Expression, Functions and Mechanisms of Circular RNAs in Gynecological Cancers. *Cancers (Basel)*. 2020;12(6):1472
2. Sakuragi N, Murakami G, Konno Y, Kaneuchi M, Watari H. Nerve-sparing radical hysterectomy in the precision surgery for cervical cancer. *J Gynecol Oncol*. 2020 May;31(3):e49

和文

3. 蝦名康彦 (2019)：救急外来～不正性器出血が主訴のとき．産婦人科救急・当直対応マニュアル．臨床婦人科産科 73(4)：26-31 ＊
4. 蝦名康彦 (2019)：子宮頸部円錐切除術後フォローアップの現状と課題．産婦の進歩 71(3)：287-92 ＊
5. 金野陽輔，渡利英道 (2019)：(第 2 章)腫瘍 卵巣癌．産科と婦人科 86(Suppl)：331-6
6. 森川 守 (2019)：妊娠高血圧症候群（母体管理，胎児管理）母体管理，HELLP 症候群など．日本産科婦人科学会誌 71 (2)：2631-5
7. 森川 守 (2019)：診断 蛋白尿の診断．周産期医学 49 (10)：1372-3
8. 太田英伸, 今西 彩, 藤原 大, 有光威志, 中川真智子, 大石芳久, 豊島勝昭, 長 和俊, 安積陽子, 伊藤結生, 竹島正浩, 三島和夫 (2020)：胎児・新生児・乳児の睡眠発達と環境調整. with NEO 33(5)：672-82
9. 長 和俊 (2020)：サーファクタント補充療法時の呼吸管理の変遷. with NEO 33(1)：86-9
10. 森川 守 (2020)：妊娠糖尿病の標準治療．産科と婦人科 87(5)：519-24
11. 森川 守 (2020)：産科編 異常妊娠 HELLP 症候群．臨床婦人科産科 74(4)：257-61
12. 森川 守 (2020)：重要！改訂 CQ309-3「妊産褥婦のけいれん」．ペリネイタルケア 39(6)：595-7
13. 森川 守 (2020)：合併症妊娠と高齢妊娠 全身合併症. *Pharma Medica* 38(6)：29-32
14. 森川 守 (2020)：治療法の再整理とアップデートのために専門家による私の治療 産褥期の静脈血栓塞栓症．日本医事新報 5023:43-4

原著論文

2019 年 11 月～2020 年 10 月

(* : 過年度未掲載分)

英文

1. Ebina Y, Mikami M, Nagase S, Tabata T, Kaneuchi M, Tashiro H, Mandai M, Enomoto T, Kobayashi Y, Katabuchi H, Yaegashi N, Udagawa Y, Aoki D: Japan Society of Gynecologic Oncology guidelines 2017 for the treatment of uterine cervical cancer. *Int J Clin Oncol.* 2019;24(1):1-19 *
2. Ishikawa M, Kasamatsu T, Tsuda H, Fukunaga M, Sakamoto A, Kaku T, Kato T, Takahashi K, Ariyoshi K, Suzuki K, Arimoto T, Matsumoto Y, Nakai H, Inoue T, Yokoyama M, Kawabata T, Kodama S, Miyamoto T, Takano M, Yaegashi N. A multi-center retrospective study of neuroendocrine tumors of the uterine cervix: Prognosis according to the new 2018 staging system, comparing outcomes for different chemotherapeutic regimens and histopathological subtypes. *Gynecol Oncol.* 2019;155(3):444-51
3. Machida H, Matsuo K, Yamagami W, Ebina Y, Kobayashi Y, Tabata T, Kanauchi M, Nagase S, Enomoto T, Mikami M: Trends and characteristics of epithelial ovarian cancer in Japan between 2002 and 2015: A JSGO-JSOG joint study. *Gynecol Oncol.* 2019;153(3):589-96 *
4. Matsuo K, Machida H, Yamagami W, Ebina Y, Kobayashi Y, Tabata T, Kaneuchi M, Nagase S, Enomoto T, Mikami M. Intraoperative Capsule Rupture, Postoperative Chemotherapy, and Survival of Women With Stage I Epithelial Ovarian Cancer. *Obstet Gynecol.* 2019;134(5):1017-26
5. Miyaji M, Deguchi M, Tanimura K, Sasagawa Y, Morizane M, Ebina Y, Yamada H: Clinical factors associated with pregnancy outcome in women with recurrent pregnancy loss. *Gynecol Endocrinol.* 2019;35(10):913-8
6. Yamada H, Tanimura K, Deguchi M, Tairaku S, Morizane M, Uchida A, Ebina Y, Nishikawa A: A cohort study of maternal screening for congenital Toxoplasma gondii infection: 12 years' experience. *J Infect Chemothe.* 2019;25(6):427-30 *
-
7. Asano H, Hatanaka KC, Matsuoka R, Dong P, Mitamura T, Konno Y, Kato T, Kobayashi N, Ihira K, Nozaki A, Oku A, Matsuno Y, Hatanaka Y, Watari H. L1CAM Predicts Adverse Outcomes in Patients with Endometrial Cancer Undergoing Full Lymphadenectomy and Adjuvant Chemotherapy. *Ann Surg Oncol.* 2020;27(7):2159-68
8. Endo H, Hama N, Baghdadi M, Ishikawa K, Otsuka R, Wada H, Asano H, Endo D, Konno Y, Kato T, Watari H, Tozawa A, Suzuki N, Yokose T, Takano A, Kato H, Miyagi Y, Daigo Y, Seino KI. Interleukin-34 expression in ovarian cancer: a possible correlation

with disease progression. *Int Immunol.* 2020;32(3):175-86

9. Imai K, Fukushi Y, Nishimura M, Ohara Y, Suzuki Y, Ota H, Nakajima A, Wada S, Fujino T. Combination of conservative treatment and temporary bilateral laparoscopic uterine artery clipping with hysteroscopic transcervical resection for cervical pregnancy: A retrospective study. *J Gynecol Obstet Hum Reprod.* 2020:101735

10. Imafuku H, Ebina Y, Suzuki K, Wakahashi S, Miyahara Y, Yosida K, Yamada H: Definitive radiotherapy in elderly patients and patients with locally advanced cervical cancer with complications. *European J Gynaecol Oncol* 2020;doi: 10.31083/j.ejgo.2020.01.4769

11. Kato H, de Souza P, Kim SW, Lickliter JD, Naito Y, Park K, Kumar S, Mugundu GM, Bang YJ. Safety, pharmacokinetics and clinical activity of adavosertib in combination with chemotherapy in Asian patients with advanced solid tumors: Phase Ib study. *Targeted Oncol.* 2020;15(1):75-84

12. Komatsu H, Banno K, Yanaihara N, and Kimura T, Board members of Japan Society of Obstetrics and Gynecology. Prevention and practice during the COVID-19 emergency declaration period in Japanese Obstetrical/Gynecological facilities. *J Obstet Gynecol Res Nov*; 46 (11): 2237-41

13. Kurokawa T, Yoshida Y, Iwanari O, Oishi T, Kasai T, Hamada M, Fujita H, Fujiwara H, Yokoyama M, Sakuragi N, Kigawa J, Suzuki M. Implementation of primary HPV testing in Japan. *Mol Clin Oncol.* 2020;13(4):22

14. Machida H, Matsuo K, Matsuzaki S, Yamagami W, Ebina Y, Kobayashi Y, Tabata T, Kaneuchi M, Nagase S, Enomoto T, Mikami M: Proposal of a Two-Tier System in Grouping Adenocarcinoma of the Uterine Cervix, *Cancers(Basel).* 2020;12(5);1251

15. Matsumiya H, Todo Y, Yamazaki H, Shimada C, Minobe S, Kato H. Bevacizumab-related gastrointestinal perforation in patients with three or more prior chemotherapy regimens: A real-world experience. *Taiwan J Obstet Gynecol.* 2020;59(3):377-80

16. Matsumiya H, Todo Y, Yamazaki H, Yamada R, Minowa K, Tsuruta T, Kurosu H, Minobe S, Kato H, Suzuki H, Taira K, Yamashiro K. Diagnostic criteria of sentinel lymph node micrometastasis or macrometastasis based on tissue rinse liquid-based cytology in gynecological cancer. *Int J Clin Oncol.* 2020 Aug 26. [Online ahead of print]

17. Mayama M, Asano H, Nomura E, Ihira K, Nozaki A, Kato T, Konno Y, Mitamura T, Kobayashi N, Takeda M, Kudo M, Watari H. Four versus six chemotherapy cycles in endometrial carcinoma with a high risk of recurrence: a retrospective study. *Jpn J Clin Oncol.* 2020;50(8):882-8

18. Mitamura T, Sekine M, Arai M, Shibata Y, Kato M, Yokoyama S, Yamashita H, Watari H, Yabe I, Nomura H, Enomoto T, Nakamura S, the Registration Committee of the

Japanese HBOC Consortium. Risk factors for lymph node metastasis of ovarian, fallopian tube and primary peritoneal cancer in hereditary breast and ovarian cancer syndrome. *Jpn J Clin Oncol*. 2020;hyaa124

19. Morikawa M, Kato-Hirayama E, Mayama M, Saito Y, Nakagawa K, Umazume T, Chiba K, Kawaguchi S, Okuyama K, Watari H. Glycemic control and fetal growth of women with diabetes mellitus and subsequent hypertensive disorders of pregnancy. *PLoS One*. 2020;15:e0230488

20. Morikawa M, Mayama M, Saito Y, Akabane-Nakagawa K, Umazume T, Chiba K, Kawaguchi S, Cho K, Watari H. Hypoproteinemia as a parameter of poor perinatal/neonatal outcomes in women with preeclampsia diagnosed as hypertension plus proteinuria. *Pregnancy Hypertens*. 2020;21:111-7

21. Morikawa M, Mayama M, Saito Y, Nakagawa-Akabane K, Umazume T, Chiba K, Kawaguchi S, Cho K, Watari H. Severe proteinuria as a parameter of worse perinatal outcomes in women with preeclampsia. *Pregnancy Hypertens* 2020 Jan 10;19:119-26

22. Morikawa M, Yamada T, Kogo H, Sugawara M, Nishikawa A, Fukushi Y, Kato-Hirayama E, Ishioka SI, Watari H. Infant car seat use in Japan after the antepartum distribution of an educational leaflet: A prospective, nonrandomized controlled trial with a questionnaire survey. *Traffic Inj Prev*. 2020;21:169-74

23. Murata Y, Miyahara Y, Suzuki K, Wakahashi S, Sudo T, Nagao S, Yamaguchi S, Ebina Y, Yamada H. Leukocytosis and thrombocytosis as prognostic factors for women with uterine cervical cancer. *European J Gynaecol Oncol*. 2020;doi: 10.31083/j.ejgo.2020.01.4886

24. Nakagawa K, Umazume T, Mayama M, Chiba K, Saito Y, Kawaguchi S, Morikawa M, Yoshino M, Watari H. Feasibility and safety of urgently initiated maternal telemedicine in response to the spread of COVID-19: A 1-month report. *J Obstet Gynaecol Res*. 2020;46(10):1967-71

25. Nishimura M, Matsumoto S, Ohara Y, Imai K, Wada S, Fujino T. Laparoscopically diagnosed and treated ruptured metastatic ovarian tumor. *Gynecol Minim Invasive Ther*. 2020;9(2):88-90

26. Ono Y, Yoshino O, Hirano T, Akiyama I, Sato E, Ito M, Kobayashi M, Nakashima A, Wada S, Onda T, Unno N, Osuga Y. IL-33 Exacerbates Endometriotic Lesions via Polarizing Peritoneal Macrophages to M2 Subtype. *Reprod Sci*. 2020;27(3):869-76

27. Sakuragi N, Kaneuchi M, Kato T, Shimada C, Todo Y, Ihira K, Nozaki A, Umazume T, Konno Y, Mitamura T, Kobayashi N, Murakami G, Watari H. Tailored radical hysterectomy for locally advanced cervical cancer. *Int J Gynecol Cancer*. 2020;30(8):1136-42

28. Sakuragi N, Kato T, Shimada C, Kaneuchi M, Todo Y, Mitamura T, Takeda M, Kudo

M, Murakami G, Watari H. Oncological Outcomes After Okabayashi-Kobayashi Radical Hysterectomy for Early and Locally Advanced Cervical Cancer. *JAMA Netw Open*. 2020;3(5):e204307

29. Sekine M, Kudo R, Yamaguchi M, Hanley SJB, Hara M, Adachi S, Ueda Y, Miyagi E, Ikeda S, Yagi A, Enomoto T. Japan's Ongoing Crisis on HPV Vaccination. *Vaccines*. 2020;8(3):E362

30. Sekine M, Yamaguchi M, Kudo R, Hanley SJB, Hara M, Adachi S, Ueda Y, Miyagi E, Ikeda S, Yagi A, Enomoto T. Epidemiologic Profile of Type-Specific Human Papillomavirus Infection after Initiation of HPV Vaccination. *Vaccines*. 2020;8(3):E425

31. Simms K, Hanley SJB, Smith M, Keane A, Canfell K, Lives Lost due to HPV Vaccine Hesitancy in Japan and the Potential Gain if Coverage is Restored: A modelling study, *Lancet Public Health*. 2020;5(4):e223-e234

32. Umazume T, Miyagi E, Haruyama Y, Kobashi G, Saito S, Hayakawa S, Kawana K, Ikenoue S, Morioka I, Yamada H. Survey on the use of personal protective equipment and COVID-19 testing of pregnant women in Japan. *J Obstet Gynaecol Res*. 2020;46:1933-9

33. Uno K, Mayama M, Yoshihara M, Takeda T, Tano S, Suzuki T, Kishigami Y, Oguchi H. Reasons for previous Cesarean deliveries impact a woman's independent decision of delivery mode and the success of trial of labor after Cesarean *BMC Pregnancy Childbirth*. 2020;20:170

34. Wada S, Fukushi Y, Nishimura M, Matsumoto S, Takimoto K, Imai K, Ota H, Tsuzuki Y, Nakajima A, Fujino T. Analysis of risk factors of postlaparoscopic shoulder pain. *J Obstet Gynaecol Res*. 2020;46(2):310-3

35. Xu D, Dong P, Xiong Y, Yue J, Konno Y, Ihira K, Kobayashi N, Todo Y, Watari H. MicroRNA-361-Mediated Inhibition of HSP90 Expression and EMT in Cervical Cancer Is Counteracted by Oncogenic lncRNA NEAT1. *Cells*. 2020;9(3):632

36. Yoshioka E, Hanley SJB, Sato Y, Saijo Y. Geography of suicide in Japan: spatial patterning and rural - urban differences. *Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology* 2020 Oct <https://doi.org/10.1007/s00127-020-01978-7>

37. Zhang R, Zhao G, Shi H, Zhao X, Wang B, Dong P, Watari H, Pfeffer LM, Yue J. Zinc regulates primary ovarian tumor growth and metastasis through the epithelial to mesenchymal transition. *Free Radic Biol Med*. 2020;160:775-83

和文

38. 今福仁美, 蝦名康彦 (2019) : 子宮頸部細胞診 ASC-H 判定例の臨床的取り扱い～病理組織診断および転帰に関する検討～. *日本臨床細胞学会雑誌* 58 (4) : 162-6 *

39. 古瀬優太 (2019) : 北海道の未受診妊婦の実態. 北海道小児保健研究会会誌 平成 30 年度 : 20-3

40. 太田 創, 小野洋輔, 浅井聡子, 島袋朋乃, 松本沙知子, 西村真唯, 滝本可奈子, 今井一章, 都築陽欧子, 中島亜矢子, 福士義将, 和田真一郎, 藤野敬史 (2020) : 子宮腺筋症合併妊娠では分娩時の弛緩出血対策が肝要である. 日本エンドメトリオーシス学会誌 41 : 160-4

41. シャロン・ハンリー (2020) : HPV ワクチン接種プログラムの効果—子宮頸がんの根絶に向かた世界の動き—. 産婦人科の実際 69 (3) : 219-24

42. シャロン・ハンリー (2020) : HPV ワクチンの積極的勧奨中止で 1 万人超の死亡と予測～2020 年中に接種率を 70%まで回復できれば, 80%の命を救える可能性～. Women's Wellness ニュースレター76 号:10-5

43. 鶴田智彦, 松宮寛子, 黒須博之, 山田竜太郎, 箕輪 郁, 見延進一郎, 藤堂幸治, 加藤秀則 (2020) : 当院での再発卵巣癌における PARP 阻害薬 (オラパリブ) の使用経験について-治療効果を予測する因子を中心に-. 産婦人科の実際 69 (9) : 1001-6

44. 永井美沙, 小林範子, 田中いずみ, 滝沢英毅, 和田真一郎, 渡利英道, 藤野敬史 (2020) : 人工血管内シャント造設術後の上肢浮腫に対する弾性筒状サポート包帯の有用性. リンパ浮腫管理の研究と実践 8 (1) : 13-26

45. 阪下和美, 中林洋介, 大山昇一, 奈倉道明, 石崎優子, 遠藤明史, 大野拓郎, 岡田 仁, 奥村秀定, 高木英行, 長 和俊, 戸谷 剛, 儘田光和, 水野美穂子, 横谷 進, 楠田 聡, 森 伸生, 細井 創, 今泉益栄 (2020) : 日本小児科学会社会保険委員会 小児科医の医療保険制度に関する意識調査報告. 日本小児科学会雑誌 124 (9) : 1458-64

46. 山田竜太郎, 藤堂幸治, 松宮寛子, 箕輪 郁, 鶴田智彦, 見延進一郎, 加藤秀則 (2020) : IA1 期の子宮頸癌患者に対する腹腔鏡下子宮全摘術の有用性 : 後方視的コホート研究. 日産婦内視鏡学会 36 (1) : 55-9

47. 和田真一郎, 小野洋輔, 今井一章, 福士義将, 浅井聡子, 島袋朋乃, 西村真唯, 松本沙知子, 滝本可奈子, 都築陽欧子, 太田 創, 中島亜矢子, 藤野敬史, 中村文隆, 高田 実, 加藤健太郎, 今井清隆, 渡邊祐介, 加藤 慧 (2020) : 腹腔鏡により腸管切除を施行した腸管内膜症 8 症例の治療経過の分析. 日本エンドメトリオーシス学会誌 41 : 133-8

症例報告

2019 年 11 月～2020 年 10 月

(＊：過年度未掲載分)

英文

1. Uenaka M, Morizane M, Tanimura K, Deguchi M, Ebina Y, Hashimoto M, Morioka I, Yamada H: Neonatal Alloimmune Thrombocytopenia: A Report of Four Cases. Kobe J Med Sci. 2019;64(6): E197-E199＊

2. Narahira A, Yanagi T, Kitamura S, Maeda T, Hata H, Asano H, Nozaki A, Kato T, Watari H, Shimizu H. Advanced malignant melanoma successfully treated with dacarbazine following anti-PD-1 /CTLA-4 treatment: Report of a case and review of the literature. Int J Dermatol 2020 Jun 4 [epub ahead of print]

和文

3. 吉澤ひかり, 蝦名康彦, 今福仁美, 鈴木嘉穂, 若橋 宣, 宮原義也, 出口雅士, 山田秀人 (2019): 正常胎児と全奇胎の双胎(complete hydatidiform mole coexistent with fetus)の 3 例. 産婦人科の進歩 71(1): 535-7 ＊

4. 津村宣彦, 本間睦美, 姉崎朋加, 佐川 正, 多田紗弥子 (2019): 自己採取 HPV 検査を活用した子宮頸がん検診受診率向上の試み. 市立千歳市民病院医誌 15(1):4-6＊

5. 安積麻帆, 鈴木嘉穂, 出口雅士, 松本培世, 長又哲史, 高橋良輔, 蝦名康彦, 寺井義人 (2020): イリノテカン+シスプラチン療法が奏功した局所進行子宮頸部小細胞癌の一例 日本婦人科腫瘍学会雑誌 38(2): 193-9

6. 安藤明子, 植田佑樹, 加藤 晶, 河野 修, 菅沼 隆, 三河 誠, 佐藤智信 (2020): 血管奇形を素地として発症し早期外科治療で救命した劇症型 A 群溶血性レンサ球菌感染症. 日本小児科学会雑誌 124(10): 1527-34

7. 黒須博之 (2020): 外陰部下垂感を主訴に受診となった陰唇癒着症の 1 例. 産科と婦人科 87(3):116-9

8. 黒須博之, 山崎龍王, 小林織恵, 小林弥生子, 櫻井うらら, 梅澤 聡 (2020): 子宮内膜細胞診陽性のみを呈した腹膜漿液性癌の 1 例. 日本臨床細胞学会雑誌 59(4):181-5

9. 津村宣彦, 本間睦美, 姉崎朋加, 佐川 正 (2020): 自己採取 HPV 検査を活用した子宮頸がん検診受診率向上の試み: 続報. 市立千歳市民病院医誌 16(1):4-6

その他

2019 年 11 月～2020 年 10 月

1. 小林範子(2020)：産婦人科の診察室から薬剤師さんへ (2/10) . Pharma Tribune web:
<https://ptweb.jp/article/2020/200210003986/>
2. 小林範子(2020)：産婦人科の診察室から薬剤師さんへ (6/29) . Pharma Tribune web:
<https://ptweb.jp/article/2020/200629004086/>
3. 古瀬優太 (2020)：うもれた虐待. 読売新聞 (朝刊)：2020.6.20
4. 渡利英道 (2020)：近況近影. Astellas Square 冬号：23
5. 渡利英道 (2020)：優秀研究賞を受賞して. 北大医学部同窓会新聞第 166 号：9
6. 渡利英道 (2020) 優秀研究賞受賞 婦人科癌の標準治療確立を目指した臨床研究. 医学研究院・医学院・医学部医学科広報(80)：10

論文以外の活動

2019 年 11 月～2020 年 10 月

1. Sharon Hanley(2020)：Short Course: COVID-19 Contact Tracing. John Hopkins University (Online) July 2020

研究費補助金・助成金・奨学金（2020年度）

文部科学省・日本学術振興会科学研究補助金

森川 守：（基盤研究 C）「HELLP 症候群における補体活性化と血管新生関連因子についての研究」（代表研究者・継続）

馬詰 武：（若手研究）「妊娠・出産に伴う血中ケトン体の役割：胎児の成長と産後うつ病の回避」（代表研究者・継続）

三田村 卓：（基盤研究 C）「卵巣がんの血管新生阻害薬耐性の発生を予防するための CCR2 阻害薬併用療法の開発」（代表研究者・継続）

井平 圭：（基盤研究 C）「新規免疫チェックポイント分子 B7H3 経路による子宮体癌転移能獲得の分子基盤解明」（代表研究者・継続）

董 培新：（基盤研究 C）「子宮頸癌進展における PD-L1 の役割と PD-L1 発現亢進の制御機構の解明」（代表研究者・継続）

古田伊都子：（基盤研究 C）「妊娠高血圧腎症の発症を予知する尿中バイオマーカーの探索」（代表研究者・継続）

シャロン・ハンリー：（基盤研究 B）「子宮頸がん検診受診率向上のための看護職によるスメアテイク制度の確立」（分担研究者・新規）

シャロン・ハンリー：（基盤研究 C）「助産師が子宮頸がん検査者になるためのモデル研修プログラムの開発とその有効性の検討」（分担研究者・新規）

シャロン・ハンリー：（基盤研究 B）「MDG5 達成に向けたアジアのマタニティ政策の検証-脱医療化とポジティブな出産経験」（分担研究者・継続）

厚生労働科学研究費補助金・委託費

なし

日本医療研究開発機構（AMED）

渡利英道：（革新的がん医療実用化研究事業）「シスプラチンを含む化学療法を施行される子宮がん患者の嘔気・嘔吐に対する六君子湯の効果-プラセボ対照無作為化二重盲検比較検証試験」（代表研究者・継続）

渡利英道：（臨床研究・治験推進事業）「子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメトホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験」

(分担研究者・継続)

渡利英道：(感染症実用化事業 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業)「思春期女性への HPV ワクチン公費助成開始後における子宮頸癌の HPV16/18 陽性割合の推移に関する疫学研究」
(分担研究者・継続)

その他

渡利英道：(共同研究)「難治性婦人科悪性腫瘍に対する PARP 阻害薬・niraparib の有効性に関する臨床的・基礎的検討」
(実施責任者・継続)

渡利英道：(受託研究)「BRCA 関連バイオマーカー {Mutational Signature-based Biomarker:MSBM} の探索研究」
(実施責任者・継続)

渡利英道：(受託研究)「局所進行子宮頸癌根治放射線療法施行例に対する UFT による補助化学療法のランダム化第Ⅲ相比較試験」
(実施責任者・継続)

渡利英道：(医師主導治験)「進行性／再発性の子宮体がん患者を対象にパクリタキセル＋カルボプラチンにアテゾリズマブを併用する二重盲検プラセボ対照ランダム化第Ⅲ相比較試験-子宮体がんを対象としたアテゾリズマブの医師主導治験- (AtTEnd)」
(実施責任者・継続)

渡利英道：(医師主導治験)「再発プラチナ抵抗性または不応性卵巣癌，卵管癌又は原発性腹膜癌女性患者を対象にセジラニブとオラパリブの併用を，セジラニブ単剤又はオラパリブ単剤又は標準的な化学療法と比較するランダム化第Ⅱ/Ⅲ相試験(COCOS)」
(実施責任者・継続)

渡利英道：(医師主導治験)「統合型ゲノム解析によるトランスレーショナルリサーチを用いた，高異型度卵巣癌患者を対象としたオラパリブ維持療法に関する多施設共同第Ⅱ相臨床試験」
(実施責任者・継続)

渡利英道：(企業治験)「ON04538 第Ⅱ相試験 卵巣がんに対する多施設共同非盲検無作為化試験」
(実施責任者・継続)

渡利英道：(企業治験)「白金製剤抵抗性/不応性卵巣癌患者を対象とした AVELUMAB (MSB0010718C) の単剤療法またはpeg化リポゾーマルドキソルビシンとの併用療法をpeg化リポゾーマルドキソルビシンの単剤療法と比較する多施設共同，ランダム化，無作為化，非盲検，第3相試験」
(実施責任者・継続)

渡利英道：(企業治験)「直近のプラチナ製剤を含む化学療法で完全奏効又は部分奏効が得られたプラチナ製剤感受性の再発性上皮性卵巣癌，卵管癌又は原発性腹膜癌の日本人患者を対象として Niraparib の安全性を評価する，第2相，多施設共同，非盲検，単群試験」
(実施責任者・継続)

渡利英道：(企業治験)「BRCA 変異陰性の進行上皮性卵巣がんの未治療患者を対象としたペムブロリズマブ及び化学療法併用投与後に維持療法としてペムブロリズマブ及びオ

ラパリブの併用投与群とペムブロリズマブ及び化学療法併用投与後に維持療法としてペムブロリズマブ単独投与群を化学療法投与群と比較する二重盲検，無作為化，第Ⅲ相試験」
(実施責任者・継続)

渡利英道：(企業治験)「再発性又は転移性子宮頸がんを対象に，REGN2810 と治験担当医が選択した化学療法とを比較する非盲検，無作為化，第Ⅲ相試験」
(実施責任者・継続)

渡利英道：(企業治験)「ATHENA (プラチナ製剤を含む化学療法による一次治療が奏効した卵巣癌患者を対象に，Rucaparib 及びニボルマブの維持療法を検討する，多施設共同，無作為化，二重盲検，プラセボ対照，第3相試験」
(実施責任者・継続)

渡利英道：(企業治験)「高リスクの局所進行子宮頸癌患者を対象とした MK-3475 と同時化学放射線療法の併用療法及び同時化学放射線療法の単独療法を比較する二重盲検，無作為化，第Ⅲ相試験 (KEYNOTE-A18 / ENGOT-cx11)」
(実施責任者・新規)

渡利英道：(国立がん研究センター研究開発費)「成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究」
(分担研究者・継続)

シャロン・ハンリー：(受託研究)「シミュレーションモデルに基づく個別化がん予防アプローチの効果検証研究」
(分担研究者・継続)

長 和俊：(受託研究) (COI プログラム)「食と健康の達人」
(分担研究者・継続)

長 和俊：(受託研究) (COI プログラム)「食と健康の達人」(若手)
(分担研究者・新規)

長 和俊：(受託研究)「遺伝性間質性肺疾患等の遺伝子検査に関する報告書作成支援」
(分担研究者・新規)

馬詰 武：(受託研究)「妊娠期の栄養状態と児及び出産後の母親に対する影響について」
(分担研究者・新規)

馬詰 武：(受託研究) (COI プログラム)「食と健康の達人」
(分担研究者・新規)

馬詰 武：(受託研究) (COI プログラム)「食と健康の達人」(若手)
(分担研究者・新規)

馬詰 武：(受託研究)「産婦人科における乙製超音波診断装置の臨床的有用性の検討」
(分担研究者・新規)

助成金・奨学金

森川 守：(2020 年度 JB 奨学寄附)「産科 DIC スコア改定へ向けての全国多施設共同研究 (後方視的検討)」
(代表研究者・新規)

森川 守：(令和元年度 公益財団法人 鈴木万平糖尿病財団 調査研究助成)「わが国における
糖尿病合併妊娠ならびに妊娠糖尿病に関連する特殊療法に関する全国調査（後方
視的検討）」（代表研究者・継続）

Sharon Hanley：(Great Britain Sasakawa Foundation)「Japan and UK Collaboration to
Support HPV Based Interventions for the Prevention of Cervical Cancer」
(With Dr Kate Cuschieri, Edinburgh University)（研究分担者・継続）

Sharon Hanley：(大和日英基金)「A Japan UK collaboration using 21st century technology
to improve access to and participation in cervical cancer screening
programs」(With Professor Margaret Cruickshanks, Aberdeen University)
(研究分担者・継続）

受賞・表彰

2019 年 11 月～2020 年 10 月

北海道大学大学院医学研究院 令和元年度 優秀研究賞
渡利英道：「婦人科がんの標準治療確立に向けた臨床研究」

3 月 12 日（北大）

学位取得者

博士（医学）

令和 2 年 3 月 25 日

朝野 拓史

子宮体癌の個別化治療を目指した臨床病理学的検討

Clinicopathological study on individualized treatment for
endometrial cancer.

外国留学

久田（嶋田） 知紗

Vincent Center for Reproductive Biology, Massachusetts General
Hospital

北大産婦人科教室 および関連病院(2020年11月1日現在 敬称略)

産婦人科 教授	渡利 英道								
保健科学研究院教授	蝦名 康彦								
准教授	長 和俊	工藤 正尊	森川 守						
特任准教授	(-)								
講師	小林 範子								
特任研究講師	シャロン・ハンリー								
助教	武田 真人	加藤 達矢	金野 陽輔	三田村 卓	千葉 健太郎	井平 圭	馬詰 武	中川 絹子	
	董 培新								
特任研究助教	朝野 拓史								
特任助教	遠藤 大介								
助手	古田伊都子								
大学生	齋藤 良玄	石塚 泰也	山崎 博之	眞山 学徳	能代 究	藤井 タケル	(徐 道知)		
医員	小林 由佳子	中陳 哲也	櫻井 愛美	良川 大晃	三坂 琴美				

関連病院

天使病院	藤枝 聡子	山口 正博	田中 星人	(松下 容子)	(松下智香子)	(永井 匠)			
市立札幌病院	奥山 和彦	菅原 照夫	平山 恵美	首藤 聡子	早賀 幸辰	箱山 聖子	川端 公輔	山本 竜太郎	
札幌厚生病院	香城 恒磨	日下 眞純	三國 雅人	桑原 道弥	角江 昭彦	細川 亜美	(三島 隆)		
北海道がんセンター	加藤 秀則	藤堂 幸治	見延 進一郎	山田 竜太郎	黒須 博之	(鶴田 智彦)	(箕輪 郁)		
JCHO北海道病院	山田 俊	小野寺 康全	小田 泰也	小山 貴弘	佐々木 瑞恵	山村 満恵	金川 明功		
KKR札幌医療センター	涌井 之雄	西 信也	池田 研	田中 理恵子	木村 敬子				
手稲溪仁会病院	藤野 敬史	和田 真一郎	福士 義将	中島 亜矢子	稲嶺 真紀子	(太田 創)	(都築陽欧子)	小野 洋輔	
	(滝本加奈子)	(西村 真唯)	(松本沙知子)	(島袋 朋乃)	(浅井 聡子)	(鈴木 凜)	(堀内 美香)		
北海道対がん協会札幌センター	藤田 博正	岡元 一平							
札幌徳洲会病院	関 敏雄	(河井紀一郎)	(名和 正行)						
市立江別病院	佐藤 博	中郷 賢二郎	赤羽 慧一郎	渡邊 碧					
砂川市立病院	津田 加都哉	山下 陽一郎	宇田 智浩	鈴木 裕太郎	佐野 友子	(野呂 薫)			
滝川市立病院									
美唄市立病院									
芦別市立病院									
深川市立病院									
旭川厚生病院	光部 兼六郎	(吉田 俊明)	小田切 哲二	飯沼 洋一郎	野崎 綾子	吉瀬 馨	(中島えりか)	(杉山 沙織)	
	(石川 雄大)	(麿澤章太郎)							
富良野協会病院	堀 保彦	(石川 雅嗣)							
市立小樽病院	櫻木 範明	金内 優典	星 信哉	青山 聖美					
俱知安厚生病院	早川 和彦	杉山 英智							
市立千歳市民病院	津村 宣彦	越田 高行	菊地 研						
苫小牧市立総合病院	藤本 俊郎	佐藤 修	島畑 顕治	山田 恭子	田中 景子	川崎 彩			
王子総合病院	野村 英司	勘野 真紀	玉城 良	秋江 惟能	工藤 ありさ				
浦河日赤病院									
八雲総合病院	白銀 透								
函館中央病院	片岡 宙門	田沼 史恵	古田 祐	小舘 英明	(椎名 浅香)	安藤 里沙	今泉 翠		
公立芽室病院									
帯広厚生病院	(川口 勲)	服部 理史	森脇 征史	明石 大輔	吉井 一樹	松宮 寛子	宮城 正太	中山 大輝	
釧路赤十字病院	山口 辰美	東 正樹	米原 利栄	青柳 有紀子	(東 大樹)	前田 悟郎	橋本 大樹		
根室市立病院									
網走厚生病院	鈴木 賀博								
中標津町立病院	松崎 登	(島野 敏司)	(笠原玲奈)						
田畑病院	田畑 浩一	田畑 雅章							
札幌マタニティ・ウイメンズHP(施設)	高後 亮	大久保 仁	横尾 洋一	高後 裕匡	有賀 敏	河口 哲	敦賀 律子	蔵谷美乃里	
	(上村 淳一)	(木村 理)	(村尾 かおり)	(小泉 明希)	(倉橋 克典)	(沢井かおり)			
札幌マタニティ南1条クリニック	八重樫 稔		帯広レディースクリニック		北澤 克彦				
札幌マタニティ・ウイメンズJRタワーC	晴山 仁志		リズムック婦人科クリニック		山本 律				
ふかざわ病院	深沢 けい子		響きの社クリニック		西谷 雅史				
さくら女性クリニック	土橋 義房		旭川レディースクリニック		佐藤 広文				
はしもとクリニック(施設)	橋本 昌樹		おおこうち産科婦人科(施設)		大河内 俊洋				
ブリモウイメンズクリニック(施設)	田中 信一		マミーズクリニックちとせ		島田 茂樹				
高岡レディースケアクリニック	高岡 波留人		函館ほんどおりクリニック		工藤 隆之				
中央メディカルクリニック	石田 君子		栄町レディースクリニック		西田 竜太郎				
いわき産婦人科	岩城 雅範		福住産科婦人科クリニック		保坂 昌芳				
アップルレディースクリニック	工藤 正史		遠藤桔梗マタニティクリニック(施設)		遠藤 力				
川上ウイメンズクリニック	川上 博史		ペルル女性クリニック		武田 真光				
湯の川女性クリニック	小葉松 洋子		セントベビークリニック		佐々木 雅弘				

()は同門会、WINDともに未入会者 / 慎重に作成しておりますが誤記などお気づきの点は幹事長までご連絡くださいましたら幸いです

令和２年度個人社員人事異動(敬称略・一部１年度を含む)

	氏 名	現勤務先	異動日	新勤務先
01	計良 光昭	天使病院	2019. 12. 31	退会（沖縄へ）
02	武田 直毅	砂川市立病院	2020. 03. 31	退職
03	佐川 正	保健科学研究所	2020. 03. 31	退職
04	野崎 綾子	大学	2020. 04. 01	旭川厚生病院
05	箱山 聖子	旭川厚生病院	2020. 04. 01	市立札幌病院
06	田中 星人	市立札幌病院	2020. 04. 01	天使病院
07	能代 究	天使病院	2020. 04. 01	大学
08	秋江 惟能	大学	2020. 04. 01	王子総合病院
09	田中 理恵子	王子総合病院	2020. 04. 01	KKR 札幌医療センター
10	遠藤 大介	KKR 札幌医療センター	2020. 04. 01	大学
11	奥 聡	大学	2020. 04. 01	救急研修（大阪）
12	渡邊 碧	天使病院	2020. 04. 01	大学
13	赤羽 慧一郎	大学	2020. 04. 01	江別市立病院
14	中陳 哲也	江別市立病院	2020. 04. 01	大学
15	安藤 里沙	大学	2020. 04. 01	函館中央病院
16	櫻井 愛美	函館中央病院	2020. 04. 01	大学
17	今泉 翠	大学（育休）	2020. 04. 01	函館中央病院
18	宮城 正太	砂川市立病院	2020. 04. 01	帯広厚生病院
19	鈴木 裕太郎	帯広厚生病院	2020. 04. 01	砂川市立病院
20	明石 大輔	白石産婦人科	2020. 04. 01	帯広厚生病院
21	山崎 博之	帯広厚生病院	2020. 04. 01	大学
22	松宮 寛子	北海道がんセンター	2020. 04. 01	帯広厚生病院
23	黒須 博之	帯広厚生病院	2020. 04. 01	北海道がんセンター
24	山本 竜太郎	旭川厚生病院	2020. 04. 01	市立札幌病院
25	金川 明功	王子総合病院	2020. 04. 01	JCHO北海道病院
26	川寄 彩	大学	2020. 04. 01	苫小牧市立病院
27	稲嶺 真紀子	浅田レディース（愛知）	2020. 04. 01	手稲溪仁会病院
28	工藤 ありさ	帯広厚生病院	2020. 04. 01	王子総合病院
29	中山 大輝	苫小牧市立病院	2020. 04. 01	帯広厚生病院
30	吉瀬 馨	函館中央病院	2020. 04. 01	旭川厚生病院
31	佐野 友子	大学	2020. 04. 01	砂川市立病院
32	良川 大晃	函館中央病院	2020. 09. 01	北大病院産科
33	三坂 琴美	釧路赤十字病院	2020. 10. 01	北大病院婦人科
34	渡邊 碧	北大病院	2020. 10. 01	江別市立病院
35	河口 哲	北大病院	2020. 10. 01	札幌マタニティウィメンズホスピタル

卒業年次別 W I N D 個人社員名簿 （令和2年11月1日現在，敬称略）

卒業年次	氏 名
48	深沢 けい子・星 信哉
49	関 敏雄
51	櫻木 範明・佐藤 博
52	大久保 仁・藤田 博正
53	高岡 波留人・山口 辰美・堀 保彦
54	佐川 正・津村 宣彦
55	奥山 和彦・田畑 雅章・藤野 敬史・石田 君子・相原 稔彦
56	武田 直毅・古田 伊都子
57	津田 加都哉・武井 弥生
58	加藤 秀則・吉田 博
59	菅原 照夫・松崎 登
60	長 和俊・早川 和彦
61	工藤 正尊・涌井 之雄
62	工藤 正史・香城 恒磨
63	三國 雅人・山下 陽一郎・山田 俊
平成元年	東 正樹・金内 優典・工藤 隆之・越田 高行・金野 宏泰・八重樫 稔・和田 真一郎・渡利 英道
2	平山 恵美・桑原 道弥・野村 英司・蝦名 康彦
3	岡元 一平・北澤 克彦・武田 真人・土橋 義房・服部 理史
4	荒木 直人・佐藤 修・首藤 聡子・白銀 透・西 信也・光部 兼六郎
5	小野寺 康全・片岡 宙門・角江 昭彦・藤堂 幸治・福士 義将・見延 進一郎・渡利 道子・藤本 俊郎
6	池田 研・川上 博史・勘野 真紀・菊地 研・小林 範子・島田 茂樹・森川 守
7	山田 崇弘
8	大場 洋子・杉山 英智・早貸 幸辰・保坂 昌芳・米原 利栄
9	小田 泰也・中島 亜矢子・西田 竜太郎・野呂 紀子・森脇 征史・中郷 賢二郎
10	敦賀 律子・高後 裕匡
11	加藤 達矢・田沼 史恵
12	小田切 哲二・河口 哲・金野 陽輔・島畑 顕治・鈴木 賀博・武田 真光
13	青山 聖美・佐々木 瑞恵・三田村 卓
14	青柳 有紀子・小山 貴弘・赤石 理奈
15	明石 大輔・山村 満恵
16	飯沼 洋一郎
17	小島 崇史・田中 理恵子・千葉 健太郎・中谷 真紀子・古田 祐・箱山 聖子
18	宇田 智浩・山田 恭子
19	井平 圭・馬詰 武・遠藤 大介・野崎 綾子
20	齊藤 良玄・嶋田 知紗・中川 絹子・藤枝 聡子・吉井 一樹
21	石塚 泰也・川端 公輔・小林 由佳子・木村 敬子・前田 悟郎・山口 正博・小館 英明・山田 竜太郎
22	朝野 拓史・大原 康弘・蔵谷 美乃里・細川 亜美・松宮 寛子・山崎 博之・黒須 博之
23	能代 究・田中 星人・眞山 学徳
24	能代 知美・野口 愛菜
25	奥 聡・藤井 タケル
26	金川 明功・櫻井 愛美・田中 景子・玉城 良・中陳 哲也・橋本 大樹・良川 大晃・鈴木裕太郎
27	赤羽 慧一郎・秋江 惟能・川崎 彩・宮城 正太・今泉 翠
28	三坂 琴美・渡邊 碧
29	安藤 里沙・工藤 ありさ・山本 竜太郎
30	吉瀬 馨・佐野 友宇子・中山 大輝

合計 163名

北大産婦人科在職者

（令和2年11月1日現在、敬称略）

教 授 :	渡利 英道
保健科学研究院教授 :	蝦名 康彦
准 教 授 :	長 和俊（周産母子センター、診療教授） 工藤 正尊（生殖医療センター） 森川 守（産科）
講 師 :	小林 範子（婦人科）
特 任 研 究 講 師 :	シャロン・ハンリー（産婦人科学教室）
助 教 :	武田 真人（婦人科）、加藤 達矢（婦人科）、金野 陽輔（WIND幹事長、婦人科外来医長）、三田村 卓（婦人科）、千葉健太郎（産科外来医長）、井平 圭（婦人科）、馬詰 武（産科病棟医長）、中川 絹子（産科）、董 培新（産婦人科学教室）
特 任 研 究 助 教 :	朝野 拓史（婦人科）
特 任 助 教 :	遠藤 大介（婦人科病棟医長）
助 手 :	古田 伊都子（産婦人科学教室）
大 学 院 生 :	石塚 泰也、眞山 学徳、能代 究、藤井 タケル、徐 道知、齊藤 良玄、山崎 博之、犬走 真弓（修士）
医 員 :	小林 由佳子、櫻井 愛美、中陳 哲也、良川 大晃、三坂 琴美
海 外 留 学 :	久田（嶋田）知紗
訪 問 外 国 人 研 究 員 :	（一）
招 へ い 教 員 :	（一）
非 常 勤 講 師 :	藤野 敬史、山田 俊、山田 崇弘
客 員 臨 床 医 師 :	藤野 敬史（客員臨床教授）、河口 哲（客員臨床講師）
臨床系連携分野教員 :	婦人科：加藤 秀則（客員教授）、金内 優典（客員准教授）、藤堂 幸治（客員准教授）
教 室 秘 書 :	伊藤 絵美、後藤 静江、鎌上 早苗、佐々木 雅美、水口 加奈子
ク ラ ー ク :	佐々木 ルミ（婦人科 CR）、篠原 美佐子（産科 CR）、山崎 るりこ（NICU）、齊藤 沙希（婦人科外来）、加我 杏弓（産科外来）
技 術 補 佐 員 :	大高 幸子（生殖医療センター）、翟 天玥（産婦人科学教室）

令和2年度W I N D 執行部

(令和2年11月1日現在)

幹事長	金野 陽輔
幹事長補佐	加藤 達矢
副幹事長	馬詰 武
庶 務	眞山 学徳 朝野 拓史
広 報	三田村 卓
研 修	遠藤 大介
リクルート	井平 圭 齊藤 良玄
監 事	津村 宣彦 佐藤 博
選挙管理委員長	大河内 俊洋